3.3 自然的状況

3.3.1 大気環境

(1) 気象

事業実施想定区域の最寄りの地域気象観測所として、事業実施想定区域の北北東約3.5kmの位置に糸数気象レーダー観測所（所在地：沖縄県南城市玉城字糸数西赤津川原）が存在する（図 3.3-1参照）。

糸数気象レーダー観測所の気象観測結果を以下に示す（表 3.3-1参照）。

1) 気温

月別平均気温の平年値は15.2℃～27.1℃であり、7月が最も高く、1月が最も低い。日最高気温の平年値は1月、2月及び12月を除いて20℃を上回り、日最低気温の平年値は年間を通して10℃を上回っている。

2) 風速・風向

最多風向の年平年値は6月から8月にかけて南寄りの風が卓越し、9月から5月にかけては北寄りの風が卓越している。風速の平年値は4.5～6.2m/sとほぼ変わらない。

また、令和元年度の月別及び年間の風配図を図 3.3-2に示す。年間を通した風向の頻度は北側寄りの風が卓越し、月別に見ると、4月から8月は南寄り、10月から翌年1月は北寄りの風が卓越している。

3) 降水量

降水量の平年値は111.7mm～253.3mmであり、梅雨の時期にかかる5月、6月及び台風の時期にかかる9月は200mmを超え、降水量が多くなっている。

表 3.3-1　気象の概況（平年値）

【糸数気象レーダー観測所】

項目／月	気温（℃）			風向・風速		降水量合計（mm/月）
	平均	日最高	日最低	最多風向	風速平均（m/s）	
1 月	15.2	18.3	12.8	北	5.9	111.7
2 月	15.4	18.6	12.9	北	5.8	134.2
3 月	17.2	20.5	14.6	北	5.5	166.8
4 月	19.6	22.9	17.1	北	5.2	171.0
5 月	22.2	25.4	19.9	東北東	4.9	241.2
6 月	25.0	27.9	23.0	南南西	4.6	253.3
7 月	27.1	30.5	24.9	南	4.5	131.9
8 月	26.9	30.4	24.6	南東	5.2	180.0
9 月	25.7	29.4	23.5	東北東	5.4	208.0
10 月	23.2	26.7	21.1	北	6.0	141.1
11 月	20.2	23.4	18.1	北	6.2	113.7
12 月	16.8	20.0	14.6	北	6.0	119.4

出典：「気象庁ホームページ／各種データ・資料／過去の気象データ検索／平年値（年・月ごとの値）（統計期間：1981 年～2010 年）」（気象庁）

図 3.3-1　地域気象観測所及び大気環境測定局位置図

出典：「気象庁ホームページ/気象レーダー」（気象庁）
「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

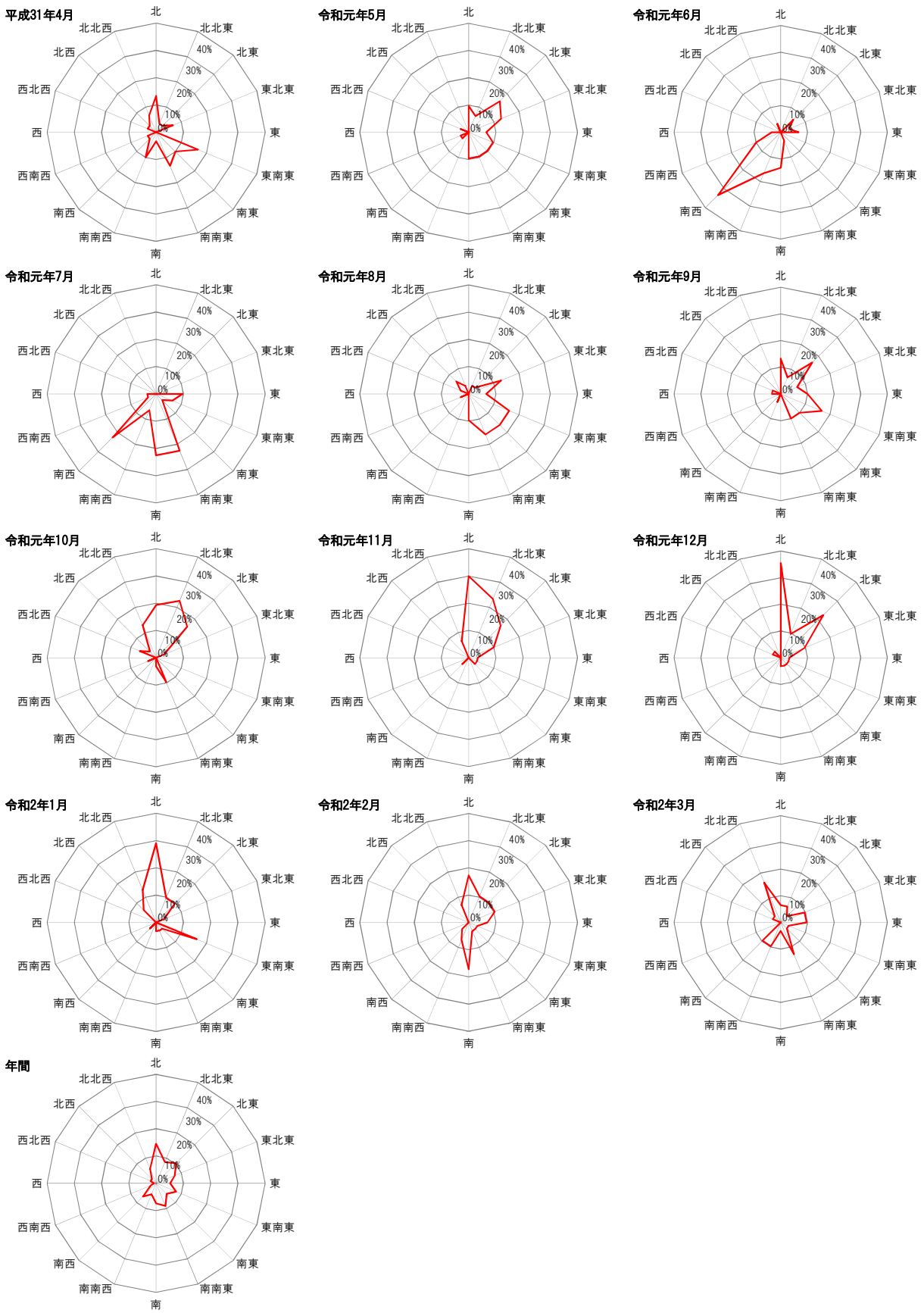

図 3.3-2　令和元年度の風配図

（糸数気象レーダー観測所：月別、年間（日最多風向））

出典：「気象庁ホームページ/各種データ・資料/過去の気象データダウンロード」（気象庁）

(2) 大気質

沖縄県内には、平成30年度末現在、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）8ヶ所、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）2ヶ所が設置されており、各測定局の測定状況を表 3.3-2 に示す。

このうち、事業実施想定区域に近い測定局を図 3.3-1に示す。

一般局は3ヶ所あり、那覇市の那覇市保健所に設置されている那覇局では、6つの項目（二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、光化学オキシダント、微小粒子状物質）が、西原町の西原町社会福祉センターに設置されている西原局では、3つの項目（二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質）が、糸満市の糸満市願寿館に設置されている糸満局では、1つの項目（光化学オキシダント）が測定されている。また、自排局は那覇市の琉球銀行松尾支店に設置されている松尾局の1ヶ所があり、2つの項目（二酸化窒素、一酸化炭素）が測定されている。

沖縄県の平成30年度の結果は、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、一酸化炭素及び微小粒子状物質についてはいずれの測定局も環境基準を達成しているが、光化学オキシダントについては環境基準を超過している（詳細は次項以降を参照）。

なお、光化学オキシダントの環境基準達成状況が低いのは、当該地域特有ではなく全国的な傾向となっている。

表 3.3-2　大気測定局の測定状況（平成 30 年度末現在）

測定局名称		所在地		測定項目					
		市町名	設置場所	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント	微小粒子状物質
一般環境大気測定局	那　覇	那覇市	那覇市保健所	○	○	○	○	○	○
	西　原	西原町	西原町社会福祉センター	○	○	○			
	与那城	うるま市	桃原公民館	○	○	○		○	
	名　護	名護市	北部保健所	○	○	○		○	○
	沖　縄	沖縄市	中部保健所	○	○	○		○	○
	糸　満	糸満市	糸満市願寿館					○	
	平　良	宮古島市	宮古保健所		○	○		○	○
	石　垣	石垣市	八重山保健所	○	○	○		○	○
自動車排出ガス測定局	牧　港	浦添市	（株）琉薬		○	○			
	松　尾	那覇市	琉球銀行松尾支店		○		○		

注：網掛け部は、事業実施想定区域に近い測定局を示す。
出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

1) 二酸化硫黄（SO_2）

平成26年度から平成30年度における二酸化硫黄の測定結果を表 3.3-3に示す。

那覇局及び西原局ともに日平均値の2%除外値は、いずれの年も長期的評価における環境基準（0.04ppm以下）を満足している。

表 3.3-3　二酸化硫黄の経年変化（平成 26～30 年度）

単位：ppm

測定局		測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
一般局	那覇	年平均値	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.04 以下（2%除外値）
		2%除外値	0.002	0.002	0.001	0.001	0.002	
	西原	年平均値	(0.001)	0.001	0.001	0.001	0.001	
		2%除外値	(0.002)	0.002	0.002	0.002	0.001	

注：( ) は測定時間が 6,000 時間未満を示す。
出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

2) 二酸化窒素（NO_2）

平成26年度から平成30年度における二酸化窒素の測定結果を表 3.3-4に示す。

那覇局、西原局及び松尾局ともに日平均値の年間98%値は、いずれの年も長期的評価における環境基準（0.04～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下）を満足している。

表 3.3-4　二酸化窒素の経年変化（平成 26～30 年度）

単位：ppm

測定局		測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
一般局	那覇	年平均値	0.008	0.007	0.006	0.006	0.005	0.04～0.06 のゾーン内又はそれ以下（年間 98%値）
		年間 98%値	0.015	0.013	0.013	0.011	0.012	
	西原	年平均値	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	
		年間 98%値	0.011	0.011	0.009	0.007	0.009	
自排局	松尾	年平均値	0.020	0.018	0.016	0.014	(0.011)	
		年間 98%値	0.041	0.038	0.035	0.031	(0.026)	

注：( ) は測定時間が 6,000 時間未満を示す。
出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

3）浮遊粒子状物質（SPM）

平成26年度から平成30年度における浮遊粒子状物質の測定結果を表 3.3-5に示す。

那覇局、西原局ともに日平均値の2%除外値は、いずれの年も長期的評価における環境基準（0.10mg/m³以下）を満足している。

表 3.3-5　浮遊粒子状物質の経年変化　（平成 26～30 年度）

単位：mg/m³

測定局		測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
一般局	那覇	年平均値	0.022	0.022	0.021	0.020	0.019	0.10 以下（2%除外値）
		2%除外値	0.051	0.047	0.043	0.043	0.045	
	西原	年平均値	(0.017)	0.018	0.017	0.016	0.016	
		2%除外値	(0.040)	0.036	0.037	0.030	0.033	

注：( ) は測定時間が 6,000 時間未満を示す。
出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

4）一酸化炭素（CO）

平成26年度から平成30年度における一酸化炭素の測定結果を表 3.3-6に示す。

那覇局、松尾局ともに日平均値の2%除外値は、いずれの年も長期的評価における環境基準（10ppm以下）を満足している。

表 3.3-6　一酸化炭素の経年変化（平成 26～30 年度）

単位：ppm

測定局		測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
一般局	那覇	年平均値	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	10 以下（2%除外値）
		2%除外値	0.7	0.5	0.5	0.4	0.4	
自排局	松尾	年平均値	0.5	0.4	(0.4)	0.4	0.3	
		2%除外値	0.9	0.9	(0.8)	0.7	0.6	

注：( ) は測定時間が 6,000 時間未満を示す。
出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

5）光化学オキシダント（Ox）

平成26年度から平成30年度における光化学オキシダントの測定結果を表 3.3-7に示す。

各年度の昼間の1時間値が環境基準(0.06ppm以下)を超えた日が那覇局で16～26日、糸満局で30～45日ある。大気の汚染に係る環境基準の超過の一因として、大陸からの飛来による影響が指摘されている。

表 3.3-7 光化学オキシダント測定結果（平成 26～30 年度）

測定局		測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
一般局	那覇	昼間の 1 時間値の年平均値（ppm）	0.030	0.030	0.029	0.030	0.033	0.06ppm 以下（1 時間値）
		昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数（日）	21	19	16	21	26	
	糸満	昼間の 1 時間値の年平均値（ppm）	0.036	0.036	0.032	0.036	0.035	
		昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数（日）	34	45	30	34	30	

出典：「沖縄県環境白書（平成 27 年度版～令和元年度版）」（平成 28 年～令和 2 年、沖縄県環境部環境政策課）

6）微小粒子状物質（PM2.5）

平成26年度から平成30年度における微小粒子状物質の測定結果を表 3.3-8に示す。

那覇局では、年平均値及び日平均値の年間98%値は、いずれの年も環境基準（年平均値：15μg/m^{3}以下、1日平均値：35μg/m^{3}以下）を満足している。

表 3.3-8 微小粒子状物質測定結果（平成 26～30 年度）

単位：μg/m^3

測定局		測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
一般局	那覇	年平均値	10.9	10.4	8.6	9.3	8.2	15 以下
		日平均値の年間 98%値	29.1	24.5	24.1	20.2	20.4	35 以下

出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

7）ダイオキシン類

事業実施想定区域の最寄りにおける大気中のダイオキシン類の測定は、那覇市により那覇市保健所（那覇市与儀）で測定が行われている。

測定結果は表 3.3-9に示すとおりであり、平成26年度から平成30年度の年平均値は0.0057～0.018pg-TEQ/m^{3}で、環境基準（0.6pg-TEQ/m^{3}以下）を満足している。

表 3.3-9　ダイオキシン類測定結果（大気）（平成 26～30 年度）

単位：pg-TEQ/m^3

測定年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	環境基準
年平均値	0.0098	0.0060	0.018	0.0057	0.0073	0.6 以下

出典：「平成 26 年度～平成 30 年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果」（平成 27 年～令和 2 年、環境省）

8）ばい煙・粉じん発生施設

大気の汚染に係る環境基準の維持達成を目的として、大気汚染の原因物質を排出する施設に対し、大防法及び県条例に基づいて、ばい煙発生施設及び粉じん発生施設（大気法及び県条例）、揮発性有機化合物排出施設（大気法のみ）について届出を義務づけ、排出基準、構造等に関する基準を遵守させるなどの規制を行っている。

関係市町におけるばい煙・粉じん発生施設の設置状況を表 3.3-10に示す。

八重瀬町における法律に基づくばい煙発生施設は、事業所4ヶ所、施設5ヶ所、一般粉じん発生施設は事業所2ヶ所、施設4ヶ所であった。また、県の条例に基づくばい煙発生施設は、事業所6ヶ所、施設9ヶ所、粉じん発生施設は事業所8ヶ所、施設19ヶ所であった。

平成30年度における大気質による苦情件数は、八重瀬町で21件、糸満市で21件、南城市で3件であった（沖縄県環境部環境政策課提供資料）。

表 3.3-10　関係市町のばい煙・粉じん発生施設設置状況（平成 31 年 3 月末現在）

項目					八重瀬町	糸満市	南城市
法律	ばい煙発生施設	大気汚染防止法	ボイラー	事業所	1	20	13
				施設	2	33	24
			直火炉	事業所	—	2	—
				施設	—	3	—
			乾燥炉	事業所	—	2	—
				施設	—	2	—
			廃棄物焼却炉	事業所	—	1	1
				施設	—	2	1
			施設種類不明	事業所	1	2	1
				施設	1	2	1
			小計	事業所	2	27	15
				施設	3	42	26
		電気ガス事業法	電気工作物	事業所	2	15	10
				施設	2	21	17
			小計	事業所	2	15	10
				施設	2	21	17
		合計		事業所	4	42	25
				施設	5	63	43
	一般粉じん発生施設	大気汚染防止法	堆積場	事業所	1	9	1
				施設	2	11	1
			ベルトコンベア バケットコンベア	事業所	1	5	2
				施設	2	8	3
			摩砕機	事業所	—	4	1
				施設	—	4	1
			ふるい	事業所	—	3	1
				施設	—	4	1
		合計		事業所	2	21	5
				施設	4	27	6
県条例	ばい煙発生施設	ボイラー		事業所	6	10	4
				施設	9	18	7
		溶解炉		事業所	—	1	—
				施設	—	1	—
		反応炉 直火炉		事業所	—	1	—
				施設	—	2	—
		廃棄物焼却炉		事業所	—	3	2
				施設	—	3	3
		合計		事業所	6	15	6
				施設	9	24	10
	粉じん発生施設	堆積場		事業所	—	4	2
				施設	—	10	2
		ベルトコンベアバケットコンベア （鉱物、土石、ｾﾒﾝﾄ）		事業所	1	2	1
				施設	5	2	1
		ベルトコンベアバケットコンベア （おがくず、木材ﾁｯﾌﾟ）		事業所	3	3	—
				施設	5	7	—
		破砕機・摩砕機 （鉱物、岩石、ｾﾒﾝﾄの用に供するもの）		事業所	1	4	—
				施設	2	6	—
		破砕機・摩砕機 （木材、ｺﾝｸﾘｰﾄの用に供するもの）		事業所	2	4	1
				施設	6	4	3
		ふるい （鉱物、岩石、ｾﾒﾝﾄの用に供するもの）		事業所	1	1	—
				施設	1	1	—
		ふるい （木材、ｺﾝｸﾘｰﾄの用に供するもの）		事業所	—	1	—
				施設	—	1	—
		合計		事業所	8	19	4
				施設	19	31	6

出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

(3) 騒音

関係市町では、環境基本法に基づき騒音に係る環境基準の類型を当てはめる地域を指定している。また、騒音規制法に基づき特定施設及び特定建設作業に伴って発生する騒音について、規制地域及び規制基準を定めている。事業実施想定区域は騒音に係る環境基準の類型及び騒音規制法に基づく規制地域に指定されていない。

平成30年度末現在の騒音規制法に基づく特定施設等の届出件数を表 3.3-11に示す。

騒音規制法に基づく特定施設は、平成30年度末で沖縄県内において3,080件の届出があり、そのうち八重瀬町で0件、糸満市で96件、南城市で0件の届出があった。

騒音規制法に基づく特定建設作業については、平成30年度末で沖縄県内において262件の届出があり、そのうち、八重瀬町で4件、糸満市で8件、南城市で0件の届出があった。

また、平成30年度における騒音による苦情件数は、八重瀬町で1件、糸満市で7件、南城市で1件であった（沖縄県環境部環境政策課提供資料）。

表 3.3-11 騒音規制法に基づく届出件数（平成 30 年度末現在）

項目	沖縄県	八重瀬町	糸満市	南城市
特定施設届出件数	3,080	0	96	0
特定建設作業届出件数	262	4	8	0

出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

さらに、沖縄県及び沖縄県内の市町村では、自動車交通騒音の測定を実施している。

対象地域内で実施されている自動車交通騒音の測定結果を、表 3.3-12に示す。

測定地点3地点のうち、糸満市糸満493付近を除いた地点で環境基準を達成している。

表 3.3-12 自動車交通騒音測定結果（平成 30 年度）

測定地点	環境基準類型	道路名	車線数	等価騒音レベル(dB)		環境基準(dB)		環境基準達成状況	
				昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
南城市玉城	B	一般国道 331 号	2	61	56	70	65	○	○
南城市佐敷	C	一般国道 331 号	4	69	65	70	65	○	○
糸満市糸満 493 付近	A	豊見城糸満線	2	64	59	60	55	×	×

出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

(4) 振動

関係市町では、振動規制法に基づき特定施設及び特定建設作業に伴って発生する振動について、規制地域及び規制基準を定めている。事業実施想定区域は振動規制法に基づく規制地域に指定されていない。

平成30年度末現在の振動規制法に基づく特定施設等の届出件数を表 3.3-13に示す。

振動規制法に基づく特定施設は、平成30年度末で沖縄県内において883件の届出があり、そのうち八重瀬町で0件、糸満市で8件、南城市で0件の届出があった。

振動規制法に基づく特定建設作業は、平成30年度末で沖縄県内において224件の届出があり、そのうち八重瀬町で2件、糸満市で7件、南城市で0件の届出があった。

また、平成30年度における振動による苦情件数は、糸満市のみ1件であった（沖縄県環境部環境政策課提供資料）。

なお、沖縄県内では振動に関する定期定点調査は実施されていない。

表 3.3-13　振動規制法に基づく届出件数（平成 30 年度末現在）

	沖縄県	八重瀬町	糸満市	南城市
特定施設届出件数	883	0	8	0
特定建設作業届出件数	224	2	7	0

出典：「令和元年度版沖縄県環境白書（平成 30 年度報告）」（令和 2 年 3 月、沖縄県環境部環境政策課）

(5) 悪臭

関係市町では、悪臭防止法に基づき工場その他事業場における事業活動に伴って発生する悪臭について、規制地域及び規制基準を定めている。事業実施想定区域及び周辺一帯は悪臭防止法に基づく規制地域に指定されている（図 3.2-1参照）。

沖縄県では、沖縄県公害防止条例の全部改正が行われ、平成21年10月1日から沖縄県生活環境保全条例が施行されている。同条例では、悪臭が近隣、一定の範囲にとどまる住民の生活環境の問題であること、悪臭防止法の公害規制の実施主体が市町村長であることから、悪臭発生施設に係る規制については市町村での対応へ移行することとしており、悪臭発生施設に係る届出や規制は行われていない。

平成30年度における悪臭による苦情件数は、八重瀬町で10件、糸満市で6件、南城市で1件であった（沖縄県環境部環境政策課提供資料）。

さらに、八重瀬町では、事業実施想定区域に位置する養豚場の敷地境界で、臭気指数の測定を実施している。

悪臭の測定結果を表 3.3-14に示す。

平成27年度～令和元年度の臭気指数は16～21となっており、規制値を超過している。

表 3.3-14　悪臭測定結果（平成 27～令和元年度）

測定項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	規制値 (A区域)
臭気指数 (臭気濃度)	16 (42)	16 (37)	16 (39)	21 (130)	18 (62)	15

出典：八重瀬町提供資料

3.3.2 水環境

(1) 水象

対象地域を流れる二級河川の概要を表 3.3-15に、主要な河川の位置を図 3.3-3に示す。

対象地域を流れる河川は、4河川が沖縄県の管理する二級河川となっている。

八重瀬町の南部には八重瀬岳を最高地とする丘陵台地があり、急斜面を北方に、緩やかな斜面を南方に向けており、全体的には平坦地形が緩やかに広がっている。河川はその間脈をぬって、長堂川、饒波川、報得川は東シナ海へ、雄樋川は太平洋へ注いでいる。

なお、事業実施想定区域には主要河川はみられない。

表 3.3-15　対象地域の二級河川一覧

（平成 30 年 4 月 1 日現在）

指定状況	水系名	河川名	指定延長（m）	流域面積（km^2）	指定年月日
二級河川	国場川	長堂川	2,300	7.39	昭和 5 年 10 月 28 日 昭和 47 年 5 月 6 日変更
		饒波川	4,500	14.60	昭和 5 年 10 月 28 日 平成 18 年 3 月 31 日変更
	雄樋川	雄樋川	2,500	13.74	昭和 47 年 5 月 6 日
	報得川	報得川	9,315	19.24	昭和 47 年 5 月 6 日 平成 25 年 10 月 25 日変更

出典：「令和元年度沖縄県水防計画」（令和 2 年 1 月、沖縄県土木建築部海岸防災課）

図 3.3-3　対象地域の主要河川位置図

出典：1.「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/土地利用規制現況図」（沖縄県企画部総合情報政策課）

2.「おきなわの川と海 2017」（沖縄県土木建築部）

(2) 水質

対象地域における、水質の公共用水域測定地点を表 3.3-16及び図 3.3-4に示す。

河川では饒波川、報得川、雄樋川の3河川が「水質汚濁に係る環境基準」のD～E類型に指定されている。

また、海域では中城湾海域が「水質汚濁に係る環境基準」のA類型に指定されているが、対象地域内には公共用水域測定地点（水質）が存在しないため、事業実施想定区域の最寄りの測定地点（11-イ　兼久地先）を対象とした。

表 3.3-16　対象地域の公共用水域測定地点（水質）

区分	水域名	河川・海域名	地点統一番号	県地点番号	地点名	類型
河川	饒波川	饒波川	47-030-52	91	友寄橋	(D)
	報得川	報得川	47-027-52	98	西原川合流点	(E)
	雄樋川	雄樋川	47-036-51	137	堀川橋	(D)
			47-036-01	138	前川（前川橋）	D
			47-036-02	139	石川橋	D
海域	中城湾	中城湾	47-601-51	11-イ	兼久地先	(A)

注：「類型」の欄の“( )”が付いていないものは環境基準点を、“( )”付きは補助測定点を示す。
出典：「平成 30 年度　水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和 2 年 2 月、沖縄県環境部環境保全課）

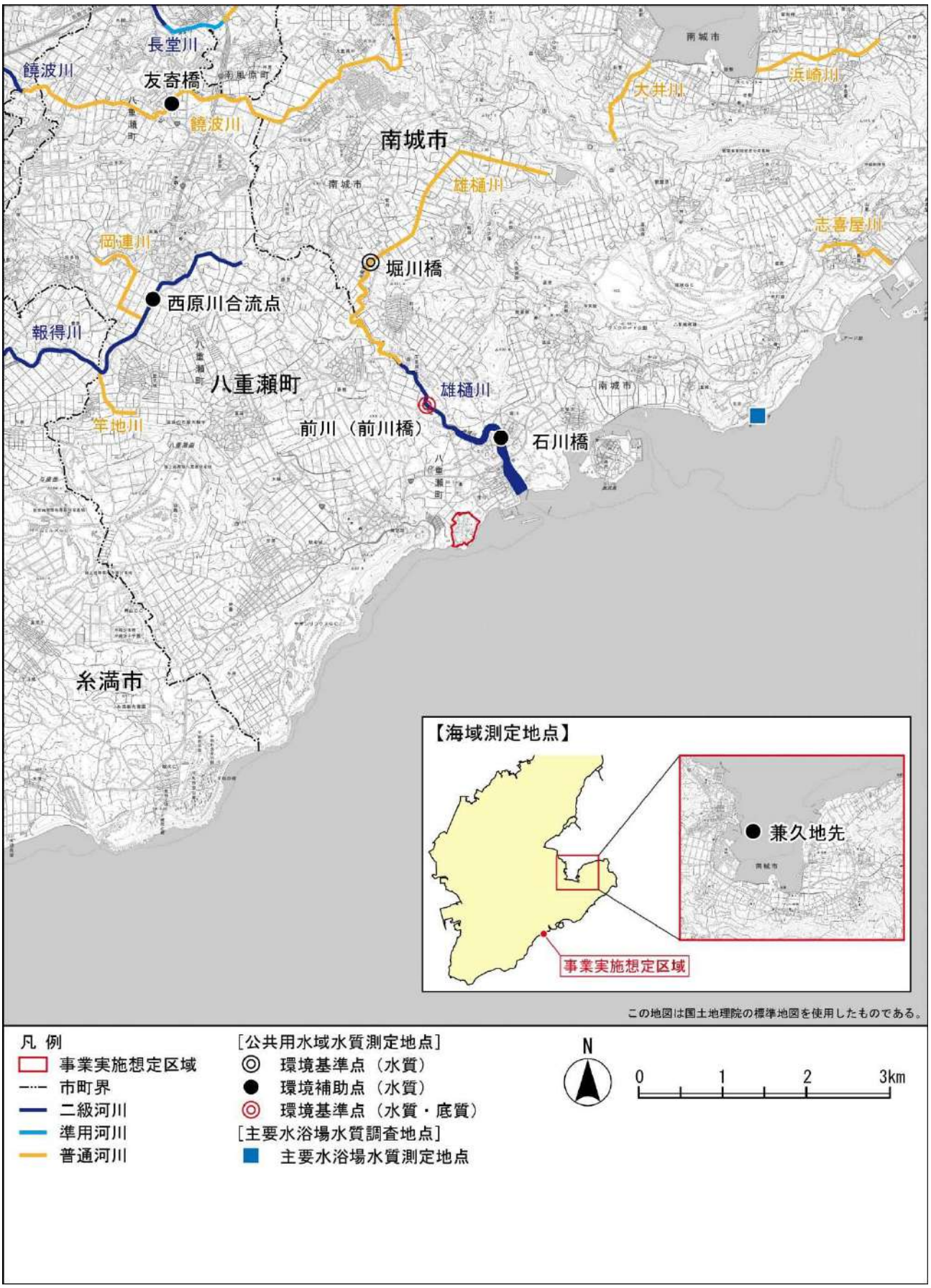

図 3.3-4　対象地域及びその周辺の水質測定地点位置図

出典：「平成 30 年度　水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和 2 年 2 月、沖縄県環境部環境保全課）
2.「沖縄県ホームページ/主要水浴場水質調査結果」（沖縄県環境部環境保全課）

1）河川

①生活環境項目

対象地域の河川の公共用水域測定地点における生活環境項目の水質測定結果を表3.3-17に示す。

pH、SSは全ての調査地点で環境基準を満たしている。DOは報得川で環境基準を超過したが、それ以外は満たしている。BODは報得川及び雄樋川で環境基準に適合していない検体があるが、それ以外は満たしている。

表 3.3-17　水質測定結果（河川：生活環境項目）

河川名	県番号	地点名	類型	pH		DO			BOD			SS			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
				最小～最大	m/n	最小～最大	m/n	平均	最小～最大	m/n	75%値	最小～最大	m/n	平均	最小～最大	m/n	平均
饒波川	89	石火矢橋	D	6.7～7.9	0/12	4.4～7.8	0/12	6.0	1.5～4.2	0/12	3.0	5～38	0/12	14	17,000～1,600,000	/12	260,000
	90	高安橋	D	7.1～8.2	0/6	5.0～8.4	0/6	7.0	2.2～4.8	0/6	3.6	9～35	0/6	19	7,800～1,600,000	/6	290,000
	91	友寄橋	D	7.3～8.2	0/6	3.6～6.6	0/6	5.7	2.1～5.2	0/6	3.8	4～51	0/6	16	23,000～920,000	/6	280,000
報得川	96	川尻橋	E	7.3～8.0	0/6	4.3～9.0	0/6	6.7	0.5～3.0	0/6	2.3	6～65	/6	23	1,700～24,000	/6	11,000
	97	水位計設置点	E	7.5～8.2	0/12	4.5～8.9	0/12	7.5	1.4～**25**	1/12	5.8	5～44	/12	16	7,900～>240,000	/12	>150,000
	98	西原川合流点	E	7.7～7.9	0/6	**1.6**～8.3	1/6	4.2	3.6～9.8	0/6	9.6	6～29	/6	16	13,000～170,000	/6	60,000
雄樋川	137	堀川橋	D	7.6～7.8	0/6	3.8～7.7	0/6	5.3	<0.5～3.7	0/6	2.3	3～10	0/6	7	7,900～54,000	/6	22,000
	138	前川（前川橋）	D	7.6～8.1	0/12	4.1～8.9	0/12	6.6	0.8～**12**	1/12	3.7	2～52	0/12	12	7,900～92,000	/12	44,000
	139	石川橋	D	7.7～8.1	0/12	5.2～9.6	0/12	7.2	1.5～**19**	1/12	5.3	2～51	0/12	10	2,300～>240,000	/12	>95,000
環境基準値			D	6.0以上8.0以下		2 mg/L 以上			8 mg/L 以下			100 mg/L 以下			－		
			E						10 mg/L 以下			ごみ等の浮遊が認められないこと					

注1：「m」環境基準値を超える検体数、「n」総検体数、「平均」日間平均値の年平均値、「75%値」日間平均値の75%値を示す。

注2：**赤文字**は環境基準値を満たしていないことを示す。ただし、BODの環境基準達成状況の年間評価は年間75%値で評価する。

出典：「平成30年度　水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和2年2月、沖縄県環境部環境保全課）

②健康項目

対象地域の河川の公共用水域測定地点における健康項目及び全亜鉛の水質測定結果を表 3.3-18に示す。

健康項目は、全ての項目で環境基準を満たしている。

表 3.3-18　水質測定結果（河川：健康項目及び全亜鉛）

分類	項目名	河川名		雄樋川	
		統一地点番号		4703601	4703602
		県地点番号		138	139
		採水日		H30.8.20	H30.8.20
		環境基準値	単位	測定結果	測定結果
健康項目	カドミウム	0.003	mg/L	< 0.0003	< 0.0003
	全シアン	検出されないこと	mg/L	< 0.1	< 0.1
	鉛	0.01	mg/L	< 0.002	< 0.002
	六価クロム	0.05	mg/L	< 0.02	< 0.02
	砒素	0.01	mg/L	< 0.002	< 0.002
	総水銀	0.005	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	アルキル水銀	検出されないこと	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	PCB	検出されないこと	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	ジクロロメタン	0.02	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	四塩化炭素	0.002	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	1,2-ジクロロエタン	0.004	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	1,1-ジクロロエチレン	0.1	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	1,1,1-トリクロロエタン	1	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	トリクロロエチレン	0.03	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	テトラクロロエチレン	0.01	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	0.002	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	チウラム	0.006	mg/L	< 0.001	< 0.001
	シマジン	0.003	mg/L	< 0.001	< 0.001
	チオベンカルブ	0.02	mg/L	< 0.002	< 0.002
	ベンゼン	0.01	mg/L	< 0.0005	< 0.0005
	セレン	0.01	mg/L	< 0.002	< 0.002
	硝酸性窒素	－	mg/L	3.4	2.4
	亜硝酸性窒素	－	mg/L	< 0.05	0.06
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	mg/L	3.4	2.4
	ふっ素	0.8	mg/L	0.16	0.14
	ほう素	1	mg/L	0.06	< 0.05
	1,4-ジオキサン	0.05	mg/L	< 0.005	< 0.005
その他	電気伝導度	－	μS/cm	820	760
	全亜鉛	－	mg/L	－	0.008

注 1：<は定量下限値未満を示す。
注 2：「検出されないこと」とは、別に定める方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることを示す。
出典：「平成 30 年度　水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和 2 年 2 月、沖縄県環境部環境保全課）

2）海域

①生活環境項目

事業実施想定区域の周辺海域の公共用水域測定地点における生活環境項目の水質測定結果を表 3.3-19に示す。

DOは基準値を超過している検体があったが、その他の項目は環境基準を満たしている。

表 3.3-19　水質測定結果（海域：生活環境項目）

海域名	県番号	地点名	類型	pH		DO			COD			大腸菌群数			n-ヘキサン抽出物質油分等		
				最小～最大	m/n	最小～最大	m/n	平均値	最小～最大	m/n	75%値	最小～最大	m/n	平均値	最小～最大	m/n	平均値
中城湾	11-イ	兼久地先	A	8.0～8.1	0/4	**6.2**～7.6	3/4	6.9	<0.5～1.0	0/4	0.9	23～79	0/4	49	<0.5～<0.5	0/4	<0.5
環境基準値			A	7.8 以上 8.3 以下		7.5 mg/L 以上			2 mg/L 以下			1,000MPN/100ml 以下			検出されないこと		

注 1：「m」環境基準値を超える検体数、「n」総検体数、「平均」日間平均値の年平均値、「75%値」日間平均値の 75%値を示す。
注 2：**赤文字**は環境基準値を満たしていないことを示す。ただし、COD の環境基準達成状況の年間評価は年間 75%値で評価する。
出典：「平成 30 年度　水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和 2 年 2 月、沖縄県環境部環境保全課）

②健康項目

事業実施想定区域周辺海域では、健康項目及び全亜鉛の水質測定は行われていない。

③水浴場

沖縄県では、利用者が年間延べ1万人以上の主要水浴場において水質状況を調査しており、事業実施想定区域の周辺では新原ビーチ（南城市）で調査が実施されている。事業実施想定区域と新原ビーチまで距離は約3.5kmである。

新原ビーチにおける水質調査結果を表 3.3-20に、調査地点位置を図 3.3-4に示す。水質の判定結果は、シーズン前、中いずれも水質判定AAであり、水浴場として「適」と判定されている。

表 3.3-20　主要水浴場水質測定結果（新原ビーチ）

年度	時期	調査月日	評価項目										参考項目					判定	利用者数（万人）
			ふん便性大腸菌群数（個/100ml）			COD（mg/L）			透明度（m）			油膜	pH		気温（℃）	水温（℃）	O-157		
			最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均		最小	最大					
H29	シーズン前	4/5,4/6	<2	<2	<2	0.8	1.5	1.1	>1	>1	>1	なし	8.0	8.3	22.5	21.6	－	水質 AA	不明（H28）
	シーズン中	8/1,8/2	<2	2	<2	1.5	1.8	1.7	>1	>1	>1	なし	8.1	8.2	32.8	32.7	－	水質 AA	不明（H28）

注 1：平成 30 年度以降は測定が行われていない。
注 2：判定は、「水浴場水質判定基準」（環境省）に基づく。
出典：「沖縄県ホームページ/主要水浴場水質調査結果」（沖縄県環境部環境保全課）

(3) 底質

対象地域内における底質の測定は雄樋川において実施されている。底質の公共用水域測定地点の概要を表 3.3-21に、調査位置を図 3.3-4に、公共用水域における底質測定結果を表 3.3-22に示す。

測定地点における総水銀とPCBはいずれも暫定除去基準値を満たしている。

表 3.3-21　対象地域内の公共用水域測定地点（底質）

区分	水域名	河川・海域名	地点統一番号	県地点番号	地点名	類型
河川	雄樋川	雄樋川	47-036-01	138	前川（前川橋）	D

出典：「平成 29 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和元年 10 月、沖縄県環境部環境保全課）

表 3.3-22　底質測定結果

河川・水域名	地点名	採取月日	乾燥減量	強熱減量	COD	カドミウム	鉛	シアン	砒素	総水銀	アルキル水銀	PCB
			%	%	mg/g	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg
雄樋川	前川（前川橋）	H29.07.10	21.4	2.2	4.5	0.09	8.1	<1	6.67	0.03	<0.01	<0.01
暫定除去基準（mg/kg）			－	－	－	－	－	－	－	25	－	10

注：< は定量下限値未満を示す。
出典：「平成 29 年度水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（令和元年 10 月、沖縄県環境部環境保全課）

(4) 地下水

対象地域内においては地下水の調査は行われていない。

3.3.3 土壌及び地盤環境

(1) 土壌汚染

沖縄県においては、昭和50年度から平成8年度まで土壌保全対策事業の一環として、農用地における土壌の調査を行った結果、基準値以上の重金属類は検出されていない（「令和元年度版沖縄県環境白書（平成30年度報告）」（令和2年3月、沖縄県環境部環境政策課）より）。

また、平成30年度における土壌汚染による苦情件数は、八重瀬町、糸満市、南城市のいずれも0件であった（沖縄県環境部環境政策課提供資料）。

(2) 地盤沈下

地盤沈下の原因は主として地下水の過剰な汲み上げにより地層が収縮することによるとされているが、沖縄県においては、この現象による地盤沈下事例は平成30年度現在までのところ認められていない（「令和元年度版沖縄県環境白書（平成30年度報告）」（令和2年3月、沖縄県環境部環境政策課）より）。

また、平成30年度における地盤沈下による苦情件数は、八重瀬町、糸満市、南城市のいずれも0件であった（沖縄県環境部環境政策課提供資料）。

(3) 地震による液状化

対象地域の液状化危険度分布図を図 3.3-5に示す。

沖縄県の広い範囲で震度6弱程度の揺れが起きたと想定された場合、事業実施想定区域は液状化の危険度が「かなり低い」地区と予測されているが、周辺には「低い」～「極めて高い」地区であると予測された箇所がある。

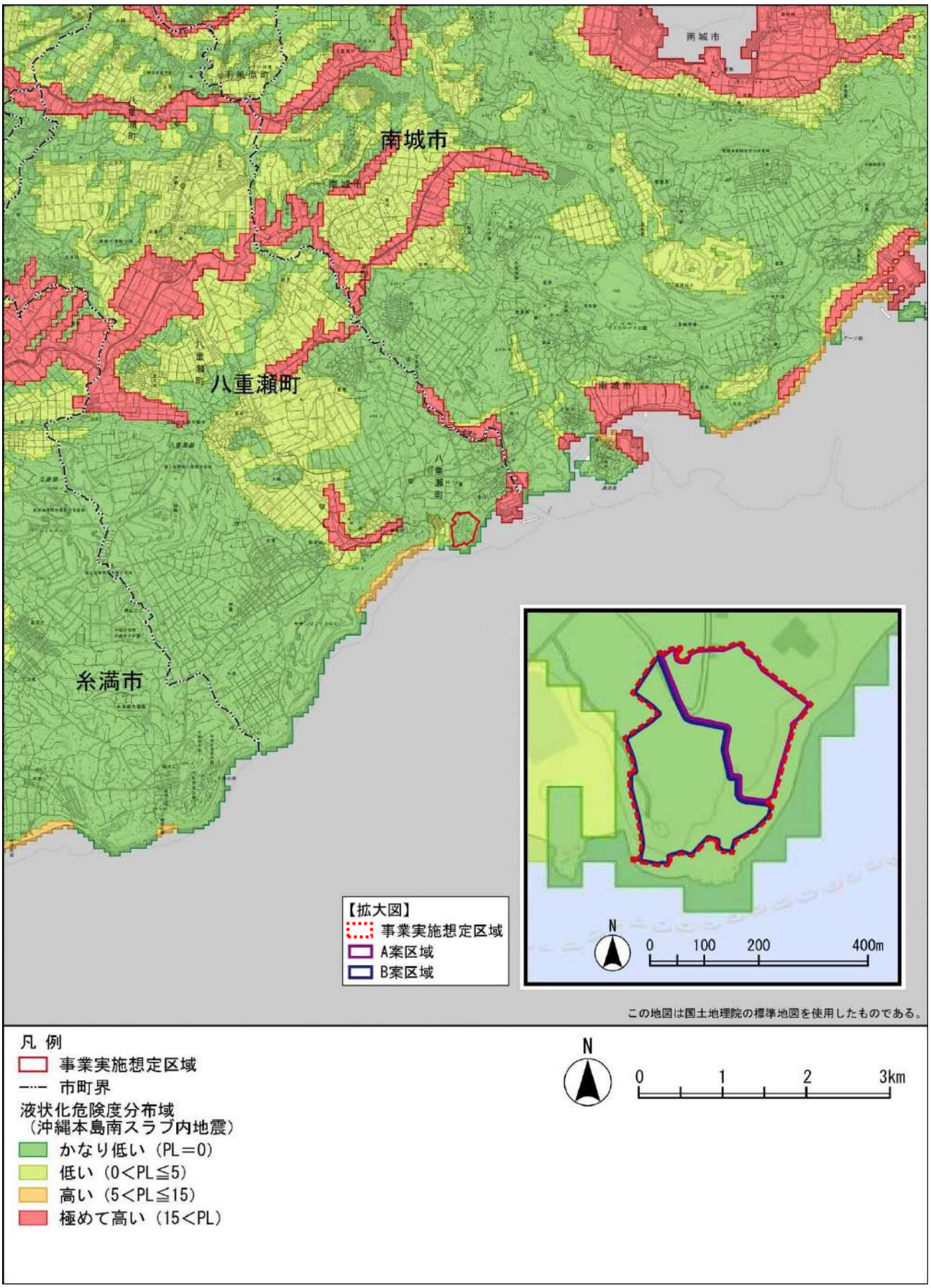

図 3.3-5　対象地域の液状化危険度分布図

出典：1.「平成 25 年度 沖縄県地震被害想定調査 報告書」（平成 26 年 3 月、沖縄県知事公室防災危機管理課）
2.「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/液状化危険度分布図（沖縄本島南部スラブ内）」（沖縄県企画部総合情報政課）

3.3.4 地形及び地質

(1) 地形

対象地域の地形分類図を図 3.3-6に示す。

対象地域の内陸部は主に「小起伏丘陵」、「丘陵上を刻む浅谷（盆状谷）」及び「谷底低地」からなり、沿岸部周辺は「台地・段丘（中位面、下位面）」、「石灰岩堤」からなっている。また、沿岸海域は「サンゴ礁原（干瀬、イノー礁池）」、「礁斜面」、「海岸低地」からなっている。

事業実施想定区域は、主に「台地・段丘（下位面）」となっている。

(2) 地質

対象地域の地質図を、図 3.3-7に示す。

対象地域は主に北側は「島尻層群泥岩」、南側は「琉球層群琉球石灰岩（固結堆積物、一部未固結～半固結）」、「琉球層群段丘石灰岩（固結堆積物）砂質石灰岩“粟石”」、沿岸部は「沖積層（未固結堆積物）粘土・シルト・砂・礫」、「砂丘砂層（未固結堆積物）石灰質砂」で構成されている。「琉球層群琉球石灰岩（固結堆積物、一部未固結～半固結）」は海中のサンゴや貝殻が堆積してできた多孔質の堆積岩であり、地下には洞穴が形成されていることが多い。

事業実施想定区域は「琉球層群段丘石灰岩（固結堆積物）砂質石灰岩“粟石”」からなっている。

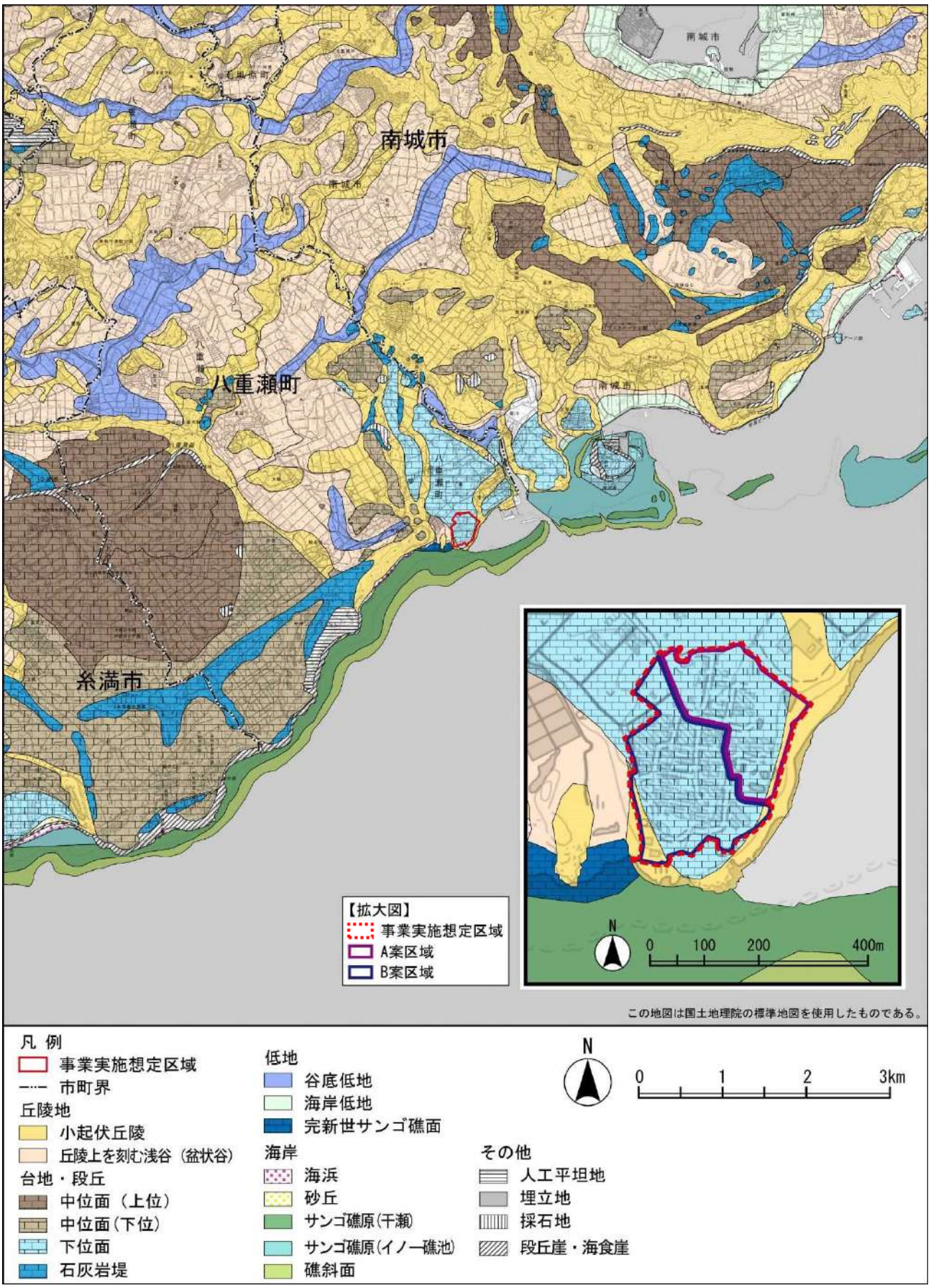

図 3.3-6　対象地域の地形分類図

出典：「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/土地分類基本調査巣（地形分類図）」（沖縄県企画部総合情報政策課）

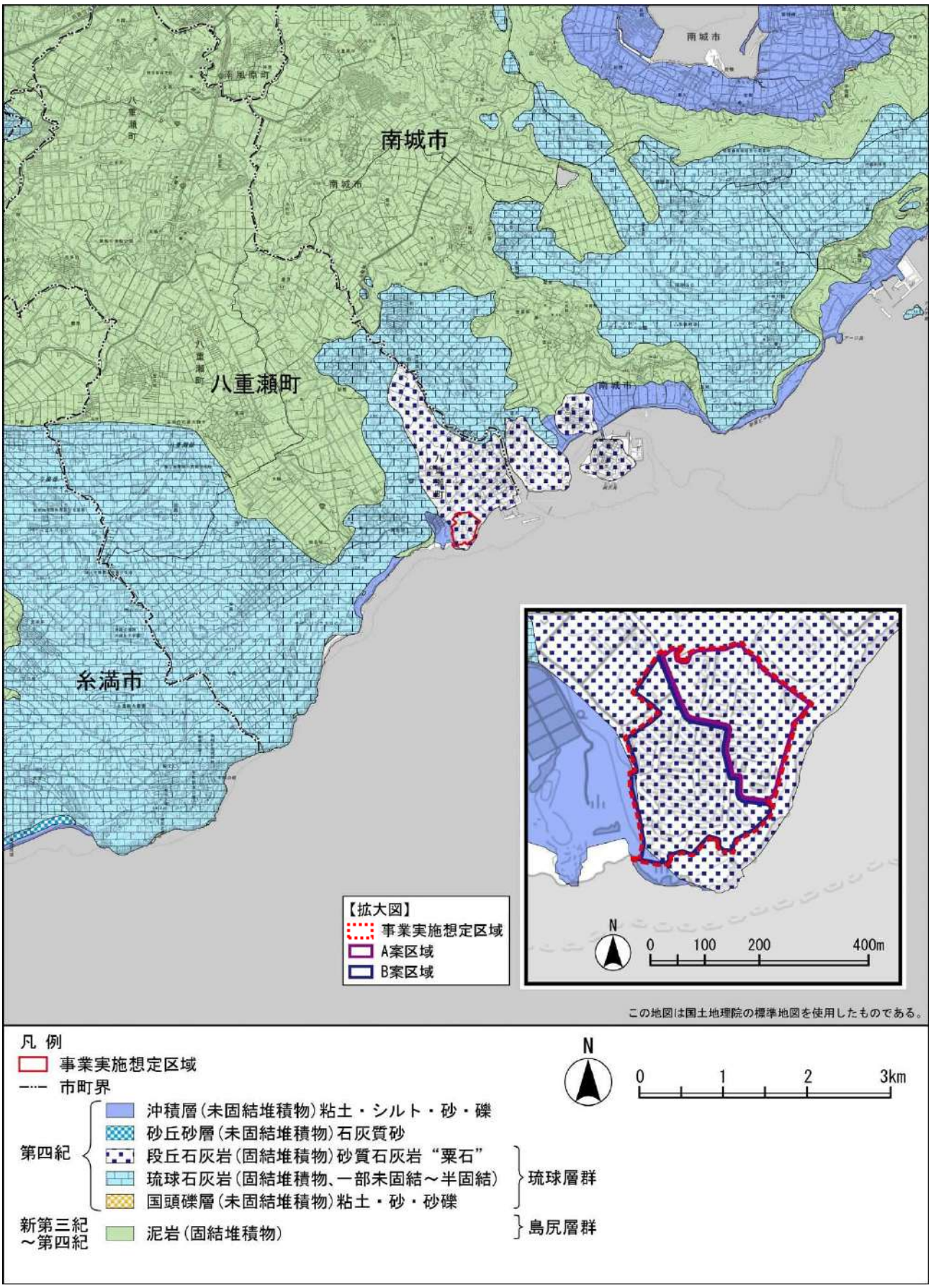

図 3.3-7 対象地域の地質図

出典：「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/土地分類基本調査巣（表層地質図）」（沖縄県企画部総合情報政策課）

(3) 特異な地形・地質

対象地域の特異な地形・地質を表 3.3-23、図 3.3-8に示す。

対象地域の特異な地形・地質は広範囲に海成段丘が、海岸沿いに自然海岸がみられる。

八重瀬町の特異な地形・地質としては、具志頭城址の海岸に「完新世離水サンゴ礁・離水キノコ岩（離水ノッチ)」が、八重瀬岳に「断層崖・メサ状地形」が、ギーザバンタ下に「湧泉」がみられる。

南城市の特異な地形・地質としては、富祖崎に「砂嘴」が、知名崎に「キノコ岩」が、斎場御嶽に「断層地形」等がみられる。

糸満市の特異な地形・地質としては、北波平等に「石灰岩堤」が、報得川河口に「ポットホール状地形」が、与座岳に「断層崖・メサ状地形」等がみられる。

事業実施想定区域には海成段丘がみられる。

表 3.3-23　対象地域における特異な地形・地質

所在地		地形・地質名	選定基準注	出典
全　域	対象地域南部	海成段丘	－	資料 1
	対象地域南部沿岸	自然海岸	－	資料 2
八重瀬町	具志頭城址の海岸	完新世離水サンゴ礁・ 離水キノコ岩（離水ノッチ）	A	資料 3
	八重瀬岳	断層崖・メサ状地形	B	資料 3
	ギーザバンタ下	湧泉	B	資料 3
南城市	富祖崎	砂嘴	C	資料 3
	知名崎	キノコ岩	B	資料 3
	斎場御嶽	断層地形	B	資料 3
	喜良原	石灰岩堤	B	資料 3
	琉球ゴルフ場南	石灰岩堤	B	資料 3
	垣花	湧泉	A	資料 3
	中村渠	湧泉	A	資料 3
	琉球ゴルフ場（地下）	石灰洞	A	資料 3
	玉城村前川：玉泉洞及びその周辺	鍾乳洞・天然橋・カルスト谷	AA	資料 3
	玉城村港川一帯	港川石灰岩	B	資料 3
	玉城村港川	石灰岩割れ目（フィッシャー）	AA	資料 3
糸満市	北波平	石灰岩堤	C	資料 3
	賀数～座波～兼城	石灰岩堤	B	資料 3
	報得川河口	ポットホール状地形	C	資料 3
	与座南	石灰岩堤	B	資料 3
	与座岳	断層崖・メサ状地形	B	資料 3
	与座岳の北西（与座ガー）	湧泉	B	資料 3
	大里（カデシガー）	湧泉	B	資料 3
	国吉	石灰岩堤	B	資料 3
	真栄里	石灰岩堤	C	資料 3
	伊敷	石灰岩堤	B	資料 3
	真壁北～宇江城	石灰岩堤	C	資料 3
	小波蔵～南波平	石灰岩堤	B	資料 3
	福地～伊原～米須	石灰岩堤	B	資料 3
	大渡西	石灰岩堤・断層崖	B	資料 3
	宇江城南	石灰岩堤	B	資料 3
	摩文仁南	石灰岩堤	C	資料 3
	宇江城西～玻名城西	石灰岩堤	A	資料 3
	摩文仁丘南～サザンリンクス	海崖・ノッチ	B	資料 3
	喜屋武～束里	石灰岩堤	B	資料 3
	束里～魂魄之塔	石灰岩堤	B	資料 3
	喜屋武岬	完新世サンゴ礁	C	資料 3
	具志川城址～荒崎	海崖・ノッチ	B	資料 3
	荒崎	サーフベンチ	B	資料 3
	荒崎～魂魄之塔～米須	海岸砂丘	B	資料 3

注：選定基準

AA：亜熱帯から熱帯地域に特有なもの、特異なもの、あるいは貴重な遺物を包含する重要なもので、今後とも保護を続けるべききわめて重要な地形・地質。

A ：亜熱帯から熱帯地域に特有なもの、特異なもの、あるいは貴重な遺跡を伴う地形・地質。ただし、開発による破壊の恐れがあり、緊急に保護を必要とする重要な地形・地質。

B ：亜熱帯・熱帯的あるいは特異な地形・地質。ただし現在、重要な地形・地質の破壊が一部に進行中であるものも含む。

C ：亜熱帯・熱帯性の地形・地質で、上記のものに比較するとやや小規模なもの。ただし現在、破壊がかなり進行している重要な地形・地質も含む。

出典：1.「第 3 回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）
2.「第 4 回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図」（平成 7 年、環境庁）
3.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）

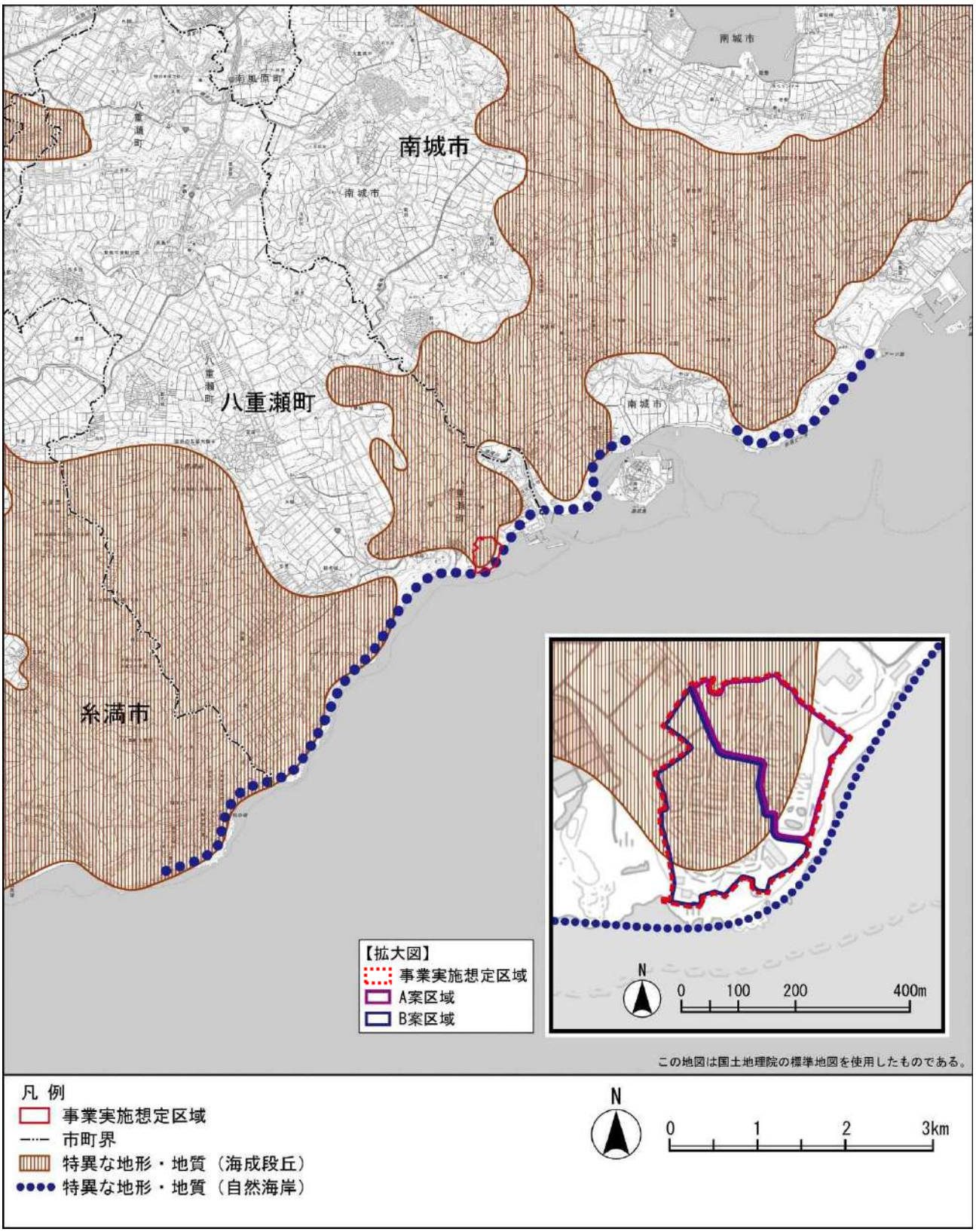

図 3.3-8　対象地域の特異な地形・地質

注：「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）には詳細な位置情報がないため、図示していない。

出典：1.「第 3 回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）
　　2.「第 4 回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図」（平成 7 年、環境庁）

(4) 土砂災害危険箇所

対象地域の土砂災害危険箇所等位置図を図 3.3-9に示す。

対象地域の内陸部は主に「小起伏丘陵」及び「丘陵上を刻む浅谷（盆状谷)」、「台地・段丘の中位面」、「石灰岩提」及び「谷底低地」からなっており、対象地域北東部の南城市には土砂災害危険箇所、土砂災害危険区域及び土砂災害警戒区域等に指定されている区域が分布しているが、事業実施想定区域には指定箇所はみられない。

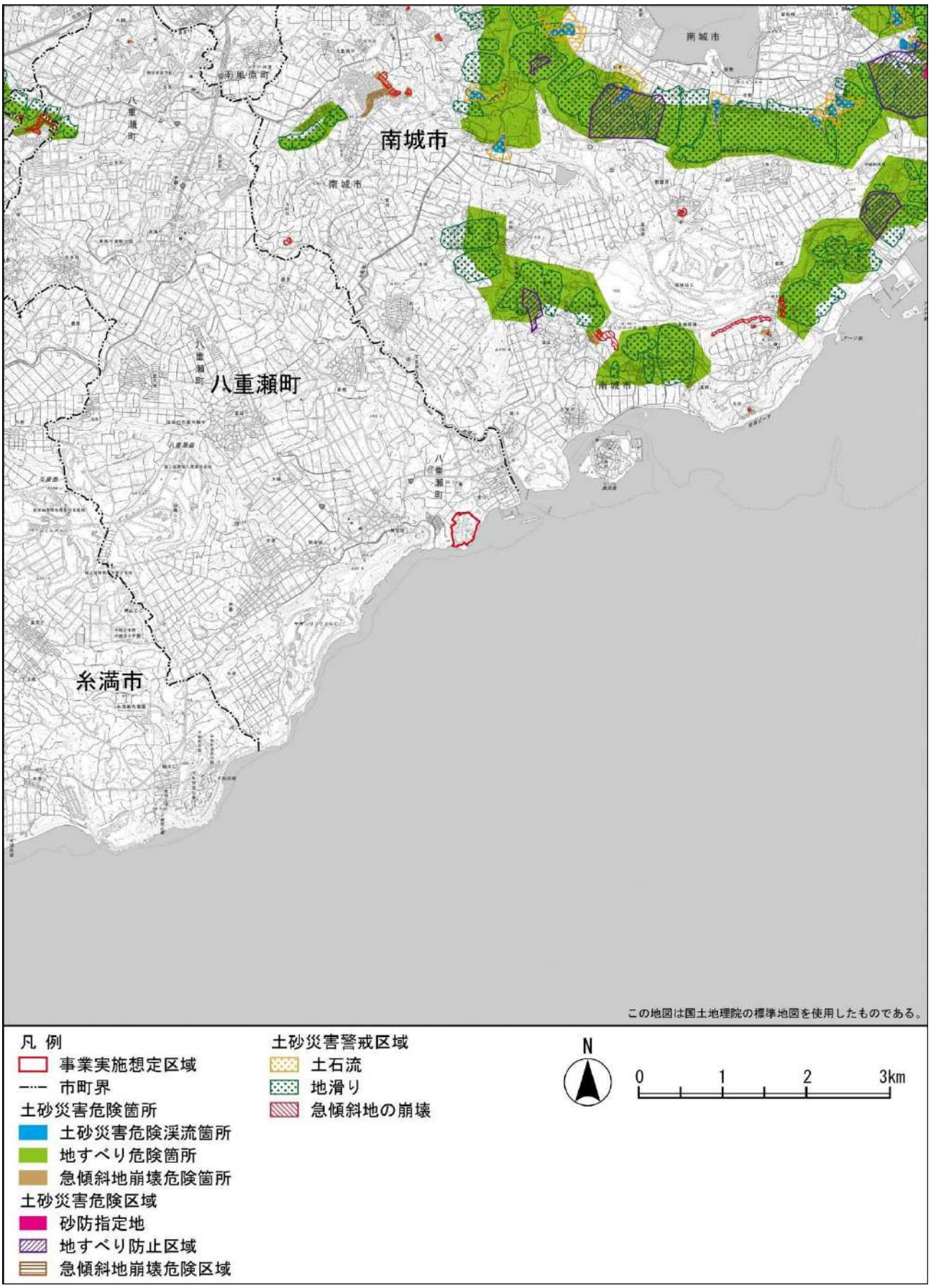

図 3.3-9　対象地域の土砂災害危険箇所等位置図

出典：1.「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/土地利用規制現況図」（沖縄県企画部総合情報政策課）
2.「国土数値情報　土砂災害警戒区域データ（平成 30 年度）」（国土交通省国土政策局国土情報課）

3.3.5 植物、動物及び生態系

(1) 植物

1) 植生

対象地域の現存植生図を図 3.3-10に示す。

対象地域は、丘陵台地を中心に畑雑草群落及び緑の多い住宅地が広がり、河川沿いや急傾斜地にはハドノキーウラジロエノキ群団（二次林）等の帯状のまとまった樹林がみられる。また、ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落、ナガバカニクサーススキ群団等がパッチ状に分布している。海岸部は陸起珊瑚礁植生、アダン群落等がみられる。

事業実施想定区域は、市街地、ハドノキーウラジロエノキ群団（二次林）となっている。

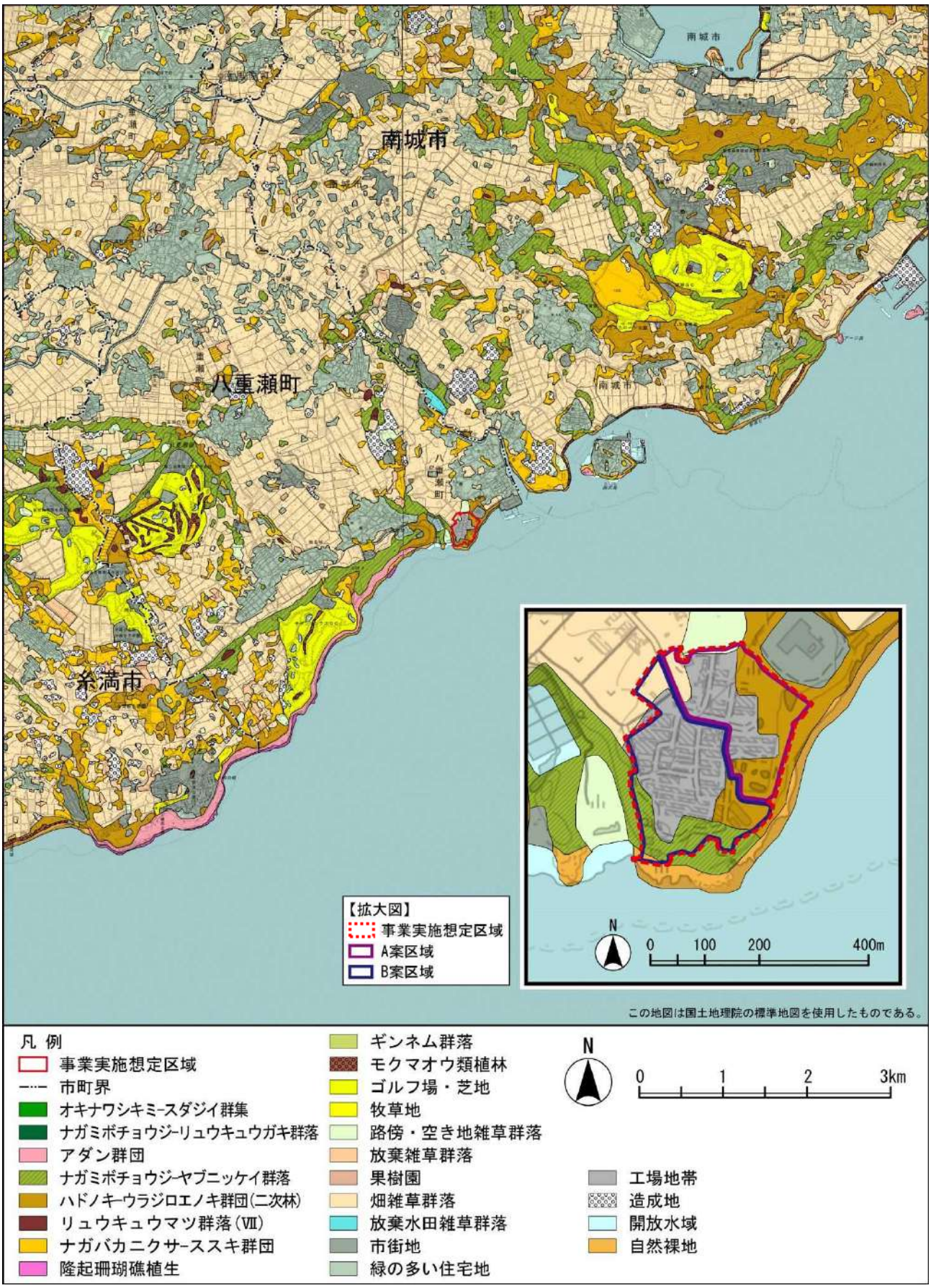

図 3.3-10　対象地域の現存植生図

出典：「自然環境調査 Web-GIS 植生調査（1/2.5 万）第 6－7 回植生図」（環境省自然環境局生物多様性センター）

2) 特定植物群落等及び巨樹･巨木

対象地域の特定植物群落及び重要な植物一覧を表 3.3-24に、巨樹・巨木一覧を表 3.3-25に、位置図を図 3.3-11に示す。

八重瀬町では、重要な植物として町指定の天然記念物である「世名城のガジュマル」及び「当銘のガジュマル」が挙げられる。

南城市では、特定植物群落として県指定の天然記念物でもある「富祖崎のハマジンチョウ並びにメヒルギ群落」のほか、「富里、糸数城趾間の断層崖植生」、「富里段層崖アマミアラカシ林」が挙げられる。

また、対象地域には巨樹・巨木が八重瀬町で22件、糸満市で0件、南城市で4件分布している。

なお、事業実施想定区域には特定植物群落、重要な植物及び巨樹・巨木はない。

表 3.3-24 対象地域における重要な植物群落及び重要な植物一覧

No.	市町名	区分	名称	出典
1	八重瀬町	重要な植物	世名城のガジュマル	出典 2、3
2			当銘のガジュマル	出典 2、3
3	南城市	特定植物群落	富里、糸数城趾間の断層崖植生	出典 1、3
4			富里段層崖アマミアラカシ林	出典 1
5		特定植物群落 重要な植物	富祖崎のハマジンチョウ並びにメヒルギ群落 （佐敷町富祖崎海岸のハマジンチョウ群落）	出典 1、2、3

出典：1.「自然環境調査 Web-GIS　特定植物群落調査（第 2、3、5 回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）
2.「文化財課要覧（令和元年度版）」（令和元年 12 月、沖縄県教育庁文化財課）
3.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）

表 3.3-25 対象地域における巨樹・巨木一覧

No.	市町名	種名	No.	市町名	種名
1	八重瀬町	デイゴ	14	八重瀬町	ガジュマル
2		ガジュマル	15		ガジュマル
3		ガジュマル	16		ガジュマル
4		ガジュマル	17		デイゴ
5		ガジュマル	18		ガジュマル
6		ガジュマル	19		ガジュマル
7		ガジュマル	20		アカギ
8		ガジュマル	21		ガジュマル
9		ガジュマル	22		ガジュマル
10		ガジュマル	23	南城市	ガジュマル
11		ガジュマル	24		ガジュマル
12		ガジュマル	25		ガジュマル
13		ガジュマル	26		デイゴ

出典：「自然環境調査 Web-GIS　巨樹・巨木林（第 4 回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

図 3.3-11　対象地域の特定植物群落、重要な植物及び巨樹･巨木の分布図

注：番号は、表 3.3-25 に対応している。

出典：1.「自然環境調査 Web-GIS　特定植物群落調査（第 2､3､5 回)」(環境省自然環境局生物多様性センター)

2.「文化財課要覧（令和元年度版)」(令和元年 12 月、沖縄県教育庁文化財課)

3.「自然環境調査 Web-GIS　巨樹・巨木林（第 4 回)」(環境省自然環境局生物多様性センター)

(2) 動物

対象地域及び周辺で生息の可能性のある重要な動物を表 3.3-26～表 3.3-33に示す。

対象地域及び周辺では、哺乳類は5目7科9種、鳥類は14目24科55種、爬虫類は2目6科11種、両生類は1目1科2種、魚類は12目25科71種、昆虫類は8目37科58種、甲殻類は3目24科72種、貝類は3網15目71科237種の重要な動物の生息の可能性が考えられる。

表 3.3-26 対象地域及び周辺の重要な哺乳類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	モグラ目	トガリネズミ科	ワタセジネズミ	●					NT	NT
2			ジャコウネズミ	●						DD
3	コウモリ目	オオコウモリ科	オリイオオコウモリ	●	●					NT
4		キクガシラコウモリ科	オキナワコキクガシラコウモリ	●	●	●		国内	EN	EN
5		ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	●						VU
6			リュウキュウユビナガコウモリ	●	●	●		国内	EN	EN
7	ネズミ目	ネズミ科	オキナワハツカネズミ	●						DD
8	ウシ目	イノシシ科	リュウキュウイノシシ	●						VU
9	カイギュウ目	ジュゴン科	ジュゴン	●			天然	国際	CR	CR
	5 目	7 科	9 種	9 種	3 種	2 種	1 種	3 種	4 種	9 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。
Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物
Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正令和2年2月10日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種
Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
注 2：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。
出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
2.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）
3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査Web-GIS 動物分布調査（第2,3,4,5,6回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.3-27(1)　対象地域及び周辺の重要な鳥類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	カモ目	カモ科	リュウキュウガモ	●						DD
2			ヒシクイ	●			天然		VU	VU
3			オオヒシクイ	●			天然		NT	NT
4			マガン	●			天然		NT	NT
5			ツクシガモ	●					VU	VU
6			オシドリ	●					DD	EN
7	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	●		●				NT
8	ハト目	ハト科	カラスバト	●	●		天然		NT	VU
9	コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	●			特天	国内	CR	CR
10	カツオドリ目	カツオドリ科	カツオドリ			●				NT
11	ペリカン目	サギ科	サンカノゴイ	●					EN	EN
12			ヨシゴイ	●					NT	NT
13			オオヨシゴイ	●				国内	CR	CR
14			リュウキュウヨシゴイ	●						NT
15			ミゾゴイ	●					VU	VU
16			ムラサキサギ	●						VU
17			チュウサギ	●	●	●			NT	NT
18			カラシラサギ	●					NT	NT
19		トキ科	ヘラサギ	●					DD	DD
20			クロツラヘラサギ	●				国内	EN	EN
21	ツル目	クイナ科	オオクイナ	●					EN	EN
22			ヒクイナ			●			NT	
23			リュウキュウヒクイナ	●						NT
24			ツルクイナ	●						NT
25	チドリ目	チドリ科	シロチドリ	●		●			VU	VU
26			メダイチドリ			●		国際		
27		セイタカシギ科	セイタカシギ	●					VU	VU
28		シギ科	オオジシギ	●					NT	NT
29			オオソリハシシギ	●		●			VU	VU
30			コシャクシギ	●				国際	EN	EN
31			ホウロクシギ	●				国際	VU	VU
32			ツルシギ	●					VU	VU
33			アカアシシギ	●					VU	VU
34			タカブシギ	●		●			VU	VU
35			ハマシギ	●		●			NT	NT
36			ヘラシギ	●				国内	CR	CR
37		タマシギ科	タマシギ	●					VU	VU
38		ミフウズラ科	ミフウズラ	●		●				VU
39		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	●					VU	VU
40		カモメ科	ズグロカモメ	●					VU	VU
41			コアジサシ	●		●			VU	VU
42			ベニアジサシ	●					VU	VU
43			エリグロアジサシ	●		●			VU	VU
44	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	●	●	●			NT	NT
45		タカ科	ツミ	●						DD
46			リュウキュウツミ		●				EN	EN
47			サシバ	●		●			VU	VU
48	フクロウ目	フクロウ科	リュウキュウオオコノハズク	●					VU	VU
49			リュウキュウアオバズク	●						NT
50	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	●	●					NT

表 3.3-27(2)　対象地域及び周辺の重要な鳥類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
51	キツツキ目	キツツキ科	リュウキュウコゲラ	●						NT
52	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	●				国内	VU	VU
53	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	●					VU	VU
54		シジュウカラ科	アマミヤマガラ	●						NT
55		ヒヨドリ科	シロガシラ			●				NT
	14 目	24 科	55 種	50 種	5 種	15 種	5 種	8 種	40 種	53 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。
Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物
Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号、最終改正令和 2 年 2 月 10 日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種
Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
注 2：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。
出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）
2.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）
3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査 Web-GIS 動物分布調査（第 2,3,4,5,6 回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.3-28　対象地域及び周辺の重要な爬虫類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	カメ目	ウミガメ科	アオウミガメ	●				国際	VU	NT
2			タイマイ	●				国際	EN	EN
3			アカウミガメ	●				国際	EN	VU
4	有鱗目	トカゲモドキ科	クロイワトカゲモドキ	●	●	●		国内	VU	VU
5		アガマ科	オキナワキノボリトカゲ	●		●			VU	VU
6		トカゲ科	オキナワトカゲ	●		●			VU	VU
7		タカチホヘビ科	アマミタカチホヘビ	●	●				NT	NT
8		コブラ科	ハイ	●	●	●			NT	NT
9			ヒロオウミヘビ	●		●			VU	NT
10			エラブウミヘビ	●		●			VU	NT
11			イイジマウミヘビ			●			VU	
	2 目	6 科	11 種	10 種	3 種	7 種	0 種	4 種	11 種	10 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。
Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物
Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号、最終改正令和 2 年 2 月 10 日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種
Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
注 2：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。
出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）
2.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）
3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査 Web-GIS 動物分布調査（第 2,3,4,5,6 回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.3-29　対象地域及び周辺の重要な両生類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	有尾目	イモリ科	イボイモリ	●				国内	VU	VU
2			シリケンイモリ	●	●	●			NT	NT
	1目	1科	2種	2種	1種	1種	0種	1種	2種	2種

注1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。
Ⅰ：「文化財保護法」（昭和25年5月30日法律第214号、最終改正平成30年6月8日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物
Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正令和2年2月10日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種
Ⅲ：「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月27日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧IA類　EN：絶滅危惧IB類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧IA類　EN：絶滅危惧IB類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
注2：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。
出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
2.「自然環境の保全に関する指針　沖縄島編」（平成10年、沖縄県環境部自然保護課）
3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査Web-GIS 動物分布調査（第2,3,4,5,6回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.3-30(1)　対象地域及び周辺の重要な魚類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	メジロザメ目	メジロザメ科	オオメジロザメ	●						NT
2	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	●					EN	EN
3		ウツボ科	コゲウツボ	●					CR	CR
4			ナミダカワウツボ	●					CR	CR
5		ウミヘビ科	ハクテンウミヘビ	●						DD
6	ニシン目	ニシン科	ドロクイ	●					EN	CR
7	コイ目	コイ科	フナ属の一種	●					CR	CR
8	サケ目	アユ科	リュウキュウアユ	●	●				CR	EX
9	タウナギ目	タウナギ科	タウナギ（沖縄産）	●	●					CR
10	トゲウオ目	ヨウジウオ科	アミメカワヨウジ	●					EN	EN
11			ヒメテングヨウジ	●					CR	CR
12	ボラ目	ボラ科	アンピンボラ	●					DD	DD
13			モンナシボラ	●					DD	DD
14	トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ科	ミナミギンイソイワシ	●					DD	DD
15	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	●		●			VU	CR
16	スズキ目	タカサゴイシモチ科	ナンヨウタカサゴイシモチ	●					DD	DD
17		ハタ科	タマカイ	●						CR
18		フエダイ科	ウラウチフエダイ	●					CR	CR
19		タイ科	オキナワキチヌ	●						EN
20		シマイサキ科	ヨコシマイサキ	●					CR	CR
21		ベラ科	メガネモチノウオ	●						EN
22		ネズッポ科	クシヒゲヌメリ	●						CR
23		ツバサハゼ科	ツバサハゼ	●					CR	CR
24		カワアナゴ科	タナゴモドキ	●					EN	VU
25			オウギハゼ	●					NT	EN
26			ヤエヤマノコギリハゼ	●					CR	VU
27			ジャノメハゼ	●					EN	NT
28			ホシマダラハゼ	●					VU	NT
29			タメトモハゼ	●					EN	VU
30			ゴシキタメトモハゼ	●					EN	EN
31			エリトゲハゼ	●					DD	DD

表 3.3-30(2)　対象地域及び周辺の重要な魚類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
32	スズキ目	ハゼ科	アサガラハゼ	●					VU	EN
33			ヒゲワラスボ	●					VU	VU
34			トカゲハゼ	●					CR	CR
35			トビハゼ	●		●			NT	EN
36			トサカハゼ	●					EN	VU
37			ヒメトサカハゼ	●					CR	CR
38			ヨロイボウズハゼ	●					CR	VU
39			カエルハゼ	●					CR	EN
40			アカボウズハゼ	●					CR	VU
41			ヒノコロモボウズハゼ	●					DD	DD
42			ハヤセボウズハゼ	●					CR	CR
43			コンテリボウズハゼ	●					CR	CR
44			ヒスイボウズハゼ	●					CR	CR
45			ニライカナイボウズハゼ	●					DD	DD
46			トラフボウズハゼ	●					DD	DD
47			ワカケサラサハゼ	●					NT	VU
48			ニセシラヌイハゼ	●					NT	EN
49			ギンポハゼ	●					VU	VU
50			マングローブゴマハゼ	●					VU	VU
51			カブキハゼ	●					NT	VU
52			ホホグロハゼ	●					EN	EN
53			マサゴハゼ	●					VU	EN
54			ドウケハゼ	●					DD	DD
55			ミナミハゼ	●						NT
56			カワクモハゼ	●					CR	VU
57			ヒラヨシノボリ	●						NT
58			キバラヨシノボリ	●					EN	EN
59			アゴヒゲハゼ	●					CR	CR
60			スダレウロハゼ	●					NT	DD
61			コンジキハゼ	●					CR	CR
62			フタスジノボリハゼ	●						NT
63			ホクロハゼ	●					NT	DD
64			キララハゼ	●					VU	EN
65			ニセツムギハゼ	●					NT	NT
66			ホホグロスジハゼ	●					NT	NT
67			クマノコハゼ	●						DD
68			チワラスボ属の一種	●						注 2
69		スナハゼ科	ナミノコハゼ	●					NT	DD
70		ゴクラクギョ科	タイワンキンギョ	●	●				CR	CR
71	フグ目	フグ科	クサフグ	●					LP	EN
	12 目	25 科	71 種	71 種	3 種	2 種	0 種	0 種	59 種	71 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。

Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物

Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正令和2年2月10日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種

Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

注 2：チワラスボ属の 1 種 1,2 なら CR、チワラスボ属の 1 種 3 なら EX

注 3：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。

出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
2.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）
3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査Web-GIS 動物分布調査（第2,3,4,5,6回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.3-31(1)　対象地域及び周辺の重要な昆虫類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	ザトウムシ目	カマアカザトウムシ科	オヒキコシビロザトウムシ	●						NT
2	クモ目	ハラフシグモ科	ヤンバルキムラグモ	●						VU
3			オキナワキムラグモ	●					VU	VU
4		トタテグモ科	キノボリトタテグモ	●					NT	NT
5			シマトタテグモ	●						VU
6			オキナワトタテグモ	●						VU
7		マシラグモ科	ウデナガマシラグモ	●						NT
8		ホラヒメグモ科	オキナワホラヒメグモ	●						NT
9		ウシオグモ科	ヤマトウシオグモ	●					DD	CR
10		ガケジグモ科	オキナワホラアナヤチグモ	●						CR
11		カヤシマグモ科	リュウキュウカヤシマグモ	●						NT
12	トンボ目	ヤンマ科	トビイロヤンマ	●					EN	EN
13		トンボ科	コフキトンボ	●		●				VU
14			シオカラトンボ	●		●				VU
15	カマキリ目	カマキリ科	ウスバカマキリ	●					DD	NT
16	バッタ目	キリギリス科	コバネササキリ	●						NT
17			オキナワキリギリス	●					NT	VU
18		ヒバリモドキ科	ウスモンウミコオロギ	●						NT
19		ノミバッタ科	ニトベノミバッタ	●						DD
20	カメムシ目	セミ科	クロイワゼミ	●		●			VU	NT
21		サシガメ科	タカラサシガメ	●					NT	NT
22			ミヤモトサシガメ	●						NT
23		ヘリカメムシ科	イワサキヘリカメムシ	●						NT
24		ヒメヘリカメムシ科	フチベニヘリカメムシ	●						NT
25		カメムシ科	ホソツマジロカメムシ	●						NT
26		イトアメンボ科	コブイトアメンボ	●						EN
27		ミズギワカメムシ科	サンゴミズギワカメムシ	●						NT
28		コオイムシ科	タイワンコオイムシ	●					CR	CR
29			タガメ	●				特二	VU	CR
30		タイコウチ科	タイコウチ	●						CR
31			ヒメミズカマキリ	●						NT
32		マツモムシ科	タイワンマツモムシ	●						NT
33			オキナワマツモムシ	●		●			NT	NT
34		サンゴアメンボ科	サンゴアメンボ	●					NT	NT
35	チョウ目	セセリチョウ科	ヒメイチモンジセセリ			●			VU	
36		シジミチョウ科	イワカワシジミ			●			NT	
37			シルビアシジミ			●			EN	
38		タテハチョウ科	コノハチョウ			●			NT	
39			リュウキュウウラナミジャノメ			●			NT	
40	コウチュウ目	オサムシ科	エゾカタビロオサムシ	●						DD
41		ハンミョウ科	オキナワシロヘリハンミョウ	●					NT	LP
42		ゲンゴロウ科	ヒメフチトリゲンゴロウ	●					VU	VU
43			トビイロゲンゴロウ	●						NT
44			オキナワスジゲンゴロウ	●					VU	VU
45			オオマルケシゲンゴロウ	●					NT	NT
46			ニセコケシゲンゴロウ	●					CR	VU
47			ツブゲンゴロウ	●						CR
48			シャープツブゲンゴロウ	●					NT	NT

表 3.3-31(2)　対象地域及び周辺の重要な昆虫類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典			選定基準			
				1	2	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
49	コウチュウ目	ミズスマシ科	ツマキレオオミズスマシ	●					NT	VU
50		コガシラミズムシ科	コウトウコガシラミズムシ	●					NT	NT
51		ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ	●					NT	EN
52		ガムシ科	タマガムシ	●						LP
53			サトミヒラタガムシ	●						VU
54			マルヒラタガムシ	●					NT	EN
55			ガムシ	●					NT	CR
56			コガタガムシ	●					VU	VU
57		テントウムシ科	オオテントウ	●						DD
58		カミキリムシ科	オキナワサビカミキリ	●					VU	DD
	8 目	37 科	58 種	53 種	0 種	9 種	0 種	1 種	30 種	53 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。

Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物

Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正令和2年2月10日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種

Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

注 2：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。

出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
2.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）
3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査Web-GIS 動物分布調査（第2,3,4,5,6回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.3-32(1)　対象地域及び周辺の重要な甲殻類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典	選定基準			
				1	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	ヨコエビ目	ゲンコツヨコエビ科	シオカワヨコエビ	●			NT	NT
2	エビ目	ヌマエビ科	ドウクツヌマエビ	●			VU	VU
3			ミナミオニヌマエビ	●			NT	NT
4			サキシマヌマエビ	●			NT	NT
5			アシナガヌマエビ	●			NT	NT
6			チカヌマエビ	●			NT	VU
7		テナガエビ科	スベスベテナガエビ	●				NT
8			ツブテナガエビ	●			NT	NT
9			ヒラアシテナガエビ	●			NT	VU
10			カスリテナガエビ	●				VU
11		テッポウエビ科	テッポウエビ	●				NT
12			ハシボソテッポウエビ	●				DD
13			リュウキュウユムシテッポウエビ	●				DD
14		コブシガニ科	イリオモテマメコブシガニ	●			DD	VU
15			アマミマメコブシガニ	●			DD	NT
16			マンガルマメコブシガニ	●				NT
17		サワガニ科	オキナワミナミサワガニ	●			NT	VU
18			アラモトサワガニ	●			VU	NT
19			サカモトサワガニ	●			NT	NT
20			ヒメユリサワガニ	●		国内	CR+EN	CR
21			オキナワオオサワガニ	●			VU	EN
22		イワガニ科	アカカクレイワガニ	●				NT
23		ベンケイガニ科	リュウキュウアカテガニ	●			VU	VU
24			ヒナアシハラモドキ	●				NT
25			ミゾテアシハラガニ	●				NT
26			アシナガベンケイガニ	●				NT
27			アダンベンケイガニ	●				VU
28			イワトビベンケイガニ	●				NT
29			オオアシハラガニモドキ	●				NT
30			ヨコスジベンケイガニ	●				NT
31			シロテアシハラガニモドキ	●				VU
32			スマトライワベンケイガニ	●				NT
33			タイワンベンケイガニ	●				NT
34			ツメナガベンケイガニ	●				NT
35			マルガオベンケイガニ	●				NT
36			ミズギワベンケイガニ	●				NT
37		モクズガニ科	アシナガアカイソガニ	●				NT
38			ケフサアシハラガニ	●				NT
39			アゴヒロカワガニ	●				NT
40			ハチジョウヒライソモドキ	●				NT
41			ヨツハヒライソモドキ	●			NT	NT
42			コウビロヒライソモドキ	●				NT
43			レンゲガニ	●				NT
44			トリウミアカイソモドキ	●				NT
45			ロッカクイソガニ	●				VU
46		ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	●				VU
47			カワスナガニ	●			NT	NT
48			ミナミムツハアリアケガニ	●				NT
49		コメツキガニ科	チゴガニ	●				VU
50		オサガニ科	タイワンヒメオサガニ	●				VU
51			ホルトハウスオサガニ	●				NT
52			ナカグスクオサガニ	●				VU
53			メナガオサガニ	●				NT

表 3.3-32(2)　対象地域及び周辺の重要な甲殻類一覧

NO.	目名	科名	種名	出典	選定基準			
				1	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
54	エビ目	スナガニ科	シオマネキ	●			VU	CR
55			リュウキュウシオマネキ	●				NT
56			シモフリシオマネキ	●				NT
57		スナモグリ科	トゲオスナモグリ	●				NT
58			オトヒメスナモグリ	●				NT
59		カクレガニ科	カワラピンノ	●				NT
60		ホンヤドカリ科	キカイホンヤドカリ	●				VU
61		モエビ科	キノボリエビ	●				NT
62		カニダマシ科	サンゴカニダマシ	●				DD
63		ヤドカリ科	シロサンゴヤドカリ	●				NT
64			マーグイヨコバサミ	●				NT
65			マルテツノヤドカリ	●				NT
66			ワカクサヨコバサミ	●				NT
67		オカヤドカリ科	ヤシガニ	●			VU	VU
68		ムツアシガニ科	ヤドリムツアシガニ	●				DD
69		ムツハアリアケガニ科	ヨウナシカワスナガニ	●			NT	NT
70			ハサミカクレガニ	●				NT
71		エンコウガニ科	リュウキュウカクエンコウガニ	●				NT
72	完胸上目	ヒメエボシガイ科	メナガオサガニハサミエボシ	●				DD
	3 目	24 科	72 種	72 種	0 種	1 種	21 種	72 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。

Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）
特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物

Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号、最終改正令和2年2月10日）
国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種
特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種

Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類
VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

注 2：種名の配列等は、原則として「令和元年度河川水辺の国勢調査生物リスト（国土交通省、2019）」に準拠した。

出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」（平成29年3月、沖縄県）

表 3.3-33(1)　対象地域及び周辺の重要な貝類一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	出典		選定基準			
					1	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1	多板綱	ヒザラガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	●					DD
2	腹足綱	－	スカシガイ科	ヤジリスカシガイ	●				NT	NT
3		Cycloneritimorpha 目	ゴマオカタニシ科	フクダゴマオカタニシ		●			NT	
4				ゴマオカタニシ	●	●			NT	LP
5			ユキスズメ科	ユキスズメ	●				VU	VU
6				タオヤメユキスズメ	●				NT	NT
7			アマオブネ科	レモンカノコ	●				NT	NT
8				ウロコイシマキ	●				NT	DD
9				アラハダカノコ	●				NT	NT
10				ヒラマキアマオブネ	●				NT	
11				ウミヒメカノコ	●				VU	VU
12		（原始紐舌類）	タニシ科	マルタニシ		●			VU	CR+EN
13			ヤマタニシ科	イトマンヤマタニシ	●					NT
14				リュウキュウヤマタニシ	●	●			VU	NT
15				ケハダヤマトガイ種群	●					VU
16				オキノエラブヤマトガイ	●				VU	VU
17				アオミオカタニシ	●	●			NT	NT
18				ヒラセアツブタガイ	●	●			EN	CR+EN
19			ゴマガイ科	リュウキュウゴマガイ		●			VU	
20				クニガミゴマガイ	●				VU	NT
21		－	キバウミニナ科	ヘナタリガイ	●	●			NT	NT
22				マドモチウミニナ	●				VU	VU
23		－	ウミニナ科	イボウミニナ	●				VU	NT
24		－	トゲカワニナ科	ヌノメカワニナ		●			NT	
25		－	スナモチツボ科	サナギモツボ	●				VU	NT
26		高腹足目	タマキビ科	イロタマキビガイ		●			NT	
27			ワカウラツボ科	ジーコンボツボ	●				NT	VU
28				ゴマツボモドキ	●				VU	VU
29				マンガルツボ		●			NT	
30				ニセゴマツボ	●				NT	NT
31			イソコハクガイ科	ヒメシラギク	●				VU	VU
32			ミズゴマツボ科	オキナワミズゴマツボ		●			NT	
33				ウミゴマツボ	●				NT	NT
34				ミズゴマツボ		●			VU	
35			カワザンショウ科	アシヒダツボ	●				NT	VU
36				クリイロカワザンショウガイ		●			NT	
37				ホラアナゴマオカチグサ類似種群	●					VU
38				オイランカワザンショウ	●				NT	NT
39				ホラアナゴマオカチグサ種群	●					VU
40				タマグスクオカチグサ	●				CR	CR+EN
41			シロネズミ科	マルシロネズミ	●					NT
42			スイショウガイ科	ネジマガキ	●				NT	NT
43				ヒダトリガイ	●				NT	NT
44				オハグロガイ	●				NT	VU
45			タカラガイ科	リュウキュウダカラ	●				VU	VU
46			タマガイ科	ネコガイ	●				NT	VU
47				ヒメツメタガイ	●					VU
48				ヒロクチリスガイ	●				NT	NT
49				アラゴマフダマ	●				VU	NT
50				テンセイタマガイ	●				NT	VU
51			ヤツシロガイ科	イワカワトキワガイ	●					DD
52			イトカケガイ科	ハブタエセキモリ	●				NT	VU
53			オリイレヨフバイ科	イガムシロ	●				NT	NT
54				ヒメオリイレムシロ	●				NT	NT
55				クリイロムシロ	●				NT	NT
56			アッキガイ科	ヨウラクレイシダマシ	●					NT
57			バイ科	ウスイロバイ	●				VU	VU
58			ミノムシガイ科	ミノムシガイ	●				VU	VU
59				ハイイロミノムシ	●				NT	VU
60				チビツクシ	●				VU	VU
61			フデガイ科	ヤタテガイ	●					VU
62			マンジ科	コトツブ	●				NT	NT
63			クダボラ科	クダボラ	●				NT	NT
64			イモガイ科	ツヤイモ	●				VU	VU
65				スジイモ	●				NT	NT
66				コゲスジイモ	●				NT	NT
67			タケノコガイ科	ヤナギシボリタケ	●					NT
68				カエンタケ	●					NT
69		－	オオシイノミガイ科	カヤノミガイ	●				NT	NT

表 3.3-33(2)　対象地域及び周辺の重要な貝類一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	出典		選定基準			
					1	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
70	腹足綱	頭楯目	オオコメツブガイ科	コヤスツララ	●				NT	NT
71		―	トウガタガイ科	ククリクチキレ	●				NT	VU
72				オオシイノミクチキレ	●				NT	NT
73				オキナワヌカルミクチキレ	●				CR+EN	CR+EN
74				アンパルクチキレガイ	●				NT	NT
75		水棲目	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ		●			DD	
76				ハブタエヒラマキガイ		●			DD	
77				トウキョウヒラマキガイ		●			DD	
78				クルマヒラマキガイ	●				VU	DD
79				ヒラマキガイモドキ		●			NT	
80				リュウキュウヒラマキガイモドキ	●				NT	NT
81				タイワンモノアラガイ		●			DD	
82		真有肺目	ハワイマイマイ科	リュウキュウノミガイ	●	●			NT	DD
83			キバサナギガイ科	ミジンサナギガイ	●	●			NT	VU
84				キバサナギガイ	●				CR+EN	NT
85			キセルモドキ科	ウスチャイロキセルガイモドキ		●			VU	
86				ウスチャイロキセルモドキ類似種群	●					CR+EN
87			キセルガイ科	キンチャクギセル	●	●			VU	CR+EN
88				サカヅキノミギセル	●	●			CR+EN	CR+EN
89				ミカヅキノミギセル		●			VU	VU
90				オキナワギセル	●	●				VU
91			カサマイマイ科	オオカサマイマイ		●			NT	
92			ベッコウマイマイ科	ベッコウマイマイ	●				DD	NT
93				ウラウズタカキビ	●					VU
94				ボニンキビ	●				NT	NT
95				カサシタラ	●					CR+EN
96				ウメムラシタラガイ		●			NT	
97				ヒメカサキビ	●				NT	NT
98			ナンバンマイマイ科	シュリケマイマイ	●	●			NT	NT
99				ウロコケマイマイ	●	●			CR+EN	VU
100				イトマンマイマイ		●				CR+EN
101				パンダナマイマイ	●	●				NT
102				トウガタホソマイマイ	●	●			CR+EN	VU
103				アマノヤマタカマイマイ	●	●		国内	CR+EN	CR+EN
104				オキナワヤマタカマイマイ	●	●			VU	CR+EN
105			ドロアワモチ科	ドロアワモチ	●				VU	NT
106				キボシアワモチ	●				VU	NT
107				ヒメキボシアワモチ	●				VU	NT
108				ゴマセンベイアワモチ	●				NT	NT
109			オカミミガイ科	コハクオカミミガイ	●	●			CR+EN	CR+EN
110				サカマキオカミミガイ	●	●			VU	VU
111				ウラシマミミガイ	●	●			NT	NT
112				ヒメシイノミミミガイ	●	●			CR+EN	CR+EN
113				ヒゲマキシイノミミミガイ		●			NT	
114				コウモリミミガイ	●				NT	DD
115				カドバリコミミガイ	●				CR+EN	DD
116				マキスジコミミガイ		●			NT	
117				クリイロコミミガイ		●			VU	
118				コベソコミミガイ	●				VU	CR+EN
119				ヘソアキコミミガイ		●			NT	
120				アツクチハマシイノミガイ	●				CR+EN	VU
121				トリコハマシイノミガイ		●			NT	
122				ニワタズミハマシイノミ	●				VU	VU
123				オウトウハマシイノミ	●				VU	VU
124				キヌメハマシイノミガイ	●				NT	VU
125				ヒメヒラシイノミガイ	●	●			NT	VU
126				クロヒラシイノミガイ	●				NT	NT
127				マダラヒラシイノミガイ	●	●			NT	NT
128	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ヤマホトトギスガイ	●				NT	
129				イシワリマクラ	●				NT	NT
130				コンゴウイシマテ	●					VU
131				サザナミマクラ	●				NT	VU
132				ホソスジヒバリガイ	●				NT	VU
133		カキ目	ハボウキ科	スエヒロガイ	●				VU	VU
134			イタボガキ科	サンゴガキ	●				VU	VU
135				ミナミマガキ	●				VU	VU
136		フネガイ目	フネガイ科	ワシノハガイ	●					NT
137			ベンケイガイ科	ウチワガイ	●				VU	VU

表 3.3-33(3)　対象地域及び周辺の重要な貝類一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	出典		選定基準			
					1	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
138	二枚貝綱	イタヤガイ目	イタヤガイ科	サンゴナデシコ	●					NT
139				ヒナキンチャク	●					CR+EN
140				ヒナノヒオウギの一種	●				NT	NT
141			ウミギク科	ウミギク	●					VU
142		－	オキナガイ科	オキナガイ	●					VU
143				コオキナガイ	●				CR+EN	CR+EN
144				ヒロクチソトオリガイ	●				NT	NT
145		ツキガイ目	ツキガイ科	カブラツキガイ	●					NT
146				ショウゴインツキガイ	●				NT	NT
147				チヂミウメ	●					NT
148				ウラキツキガイ	●				VU	VU
149				クチベニツキガイ	●				VU	VU
150				ツキガイ	●					NT
151				カゴガイ	●				VU	VU
152				オボロヅキ	●					DD
153		－	ツクエガイ科	コヅツガイ	●				NT	NT
154		－	ウロコガイ科	アケボノガイ	●				VU	VU
155				ナタマメケボリガイ	●				NT	DD
156				セワケガイ	●				VU	VU
157				オオツヤウロコガイ	●				VU	VU
158				ユウレイウロコガイ	●					NT
159				ミナミウロコガイ	●				NT	NT
160				コハクマメアゲマキ	●				NT	NT
161				ユンタクシジミ	●				NT	NT
162				アマミスジホシムシモドキヤドリガイ	●					DD
163				ツバサマメアゲマキ	●					NT
164				オサガニヤドリガイ	●				NT	DD
165				セワケハチミツガイ	●				NT	NT
166				フィリピンハナビラガイ	●				VU	NT
167				ベッコウマメアゲマキ	●				NT	NT
168				バライロマメアゲマキ	●				NT	NT
169				ツマベニマメアゲマキ	●				NT	NT
170		無面目	マテガイ科	ダンダラマテガイ	●					VU
171				リュウキュウマテガイ	●				NT	NT
172				ジャングサマテガイ	●				CR+EN	CR+EN
173				ホソバラフマテガイ	●				VU	NT
174		ザルガイ目	ザルガイ科	カワラガイ	●				NT	NT
175				ハートガイ	●				CR+EN	VU
176				イレズミザルガイ	●				VU	VU
177			ニッコウガイ科	オガタザクラ	●				CR+EN	CR+EN
178				ゴイシザラ	●					VU
179				ニッコウガイ	●				CR+EN	VU
180				ハツヒザクラ	●					NT
181				ホシヤマナミノコザラ	●				VU	VU
182				リュウキュウクサビザラ	●				VU	VU
183				ヒラセザクラ	●				NT	VU
184				モチヅキザラ	●				VU	VU
185				チリメンジュロウジン	●				CR	VU
186				ハスメザクラ	●				NT	NT
187				リュウキュウザクラ	●				NT	NT
188				ミクニシボリザクラ	●				NT	NT
189				アマサギガイ	●				VU	NT
190				モモイロサギガイ	●				CR+EN	VU
191				トガリユウシオガイ	●				NT	NT
192				ダイミョウガイ	●				NT	NT
193				トンガリベニガイ	●				VU	NT
194				コノハザクラ	●					VU
195				ウラキヒメザラ	●				NT	VU
196				アオサギ	●					VU
197				チガイザクラ	●				VU	NT
198				ネコジタザラ	●					NT
199				ウネイチョウシラトリ	●					VU
200				ヒワズウネイチョウ	●				VU	VU
201				ヒノデガイの一種	●				NT	VU
202				ヒラザクラ	●				NT	NT
203				ヘラサギガイ	●				VU	NT
204			フジノハナガイ科	ナミノコガイ	●				NT	

表 3.3-33(4)　対象地域及び周辺の重要な貝類一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	出典		選定基準			
					1	3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
205	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミ科	ウスムラサキアシガイ	●				VU	VU
206				ハスメヨシガイ	●				NT	NT
207				ミナトマスホガイ	●				VU	VU
208			アサジガイ科	ナノハナガイ	●				CR+EN	VU
209				シロナノハナガイ	●				NT	NT
210				コバコガイ	●				VU	VU
211				ザンノナミダ	●				NT	NT
212		－	ドブシジミ科	オキナワドブシジミ	●					VU
213		オオノガイ目	オオノガイ科	オフクマスオ	●				VU	VU
214		－	バカガイ科	カモジガイ	●				NT	NT
215				ナガタママキ	●				CR+EN	CR+EN
216				リュウキュウアリソガイ	●				VU	VU
217				ユキガイ	●				NT	NT
218				オオシマホクロガイ	●					VU
219		－	チトセノハナガイ科	チトセノハナガイ	●				VU	VU
220		－	チドリマスオ科	クチバガイ	●				NT	NT
221				チドリマスオ	●					DD
222		－	フタバシラガイ科	Diplodonta sp. B	●					DD
223		マルスダレガイ目	シジミ科	リュウキュウヒルギシジミ	●				VU	DD
224			ハナグモリ科	ハナグモリガイ	●				VU	VU
225			マルスダレガイ科	オイノカガミ	●				NT	NT
226				フジイロハマグリ	●				NT	NT
227				タイワンシラオガイ	●				CR+EN	CR+EN
228				カミブスマ	●				NT	NT
229				ダテオキシジミ	●				CR	NT
230				スダレハマグリ	●				NT	NT
231				ウスカガミ	●					NT
232				ユウカゲハマグリ	●				VU	NT
233				マダライオウハマグリ	●				CR+EN	VU
234				イオウハマグリ	●				VU	NT
235				トモシラオガイ	●					NT
236				リュウキュウアサリ	●				VU	VU
237				オウギカノコアサリ	●					NT
	3 綱	15 目	71 科	237 種	213 種	46 種	0 種	1 種	192 種	213 種

注 1：重要な種の選定基準は以下の資料に基づく。

Ⅰ：「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正平成 30 年 6 月 8 日）

特天：特別天然記念物　天然：天然記念物　県天：県指定の天然記念物

Ⅱ：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号、最終改正令和 2 年 2 月 10 日）

国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種

特一：特定第一種国内希少野生動植物種　特二：特定第二種国内希少野生動物種　緊急：緊急指定種

Ⅲ：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 27 日、環境省）

EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

Ⅳ：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）

EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　CR：絶滅危惧 IA 類　EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群

注 2：種名の配列等は、原則として「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）に準拠した。

出典：1.「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-動物編-」（平成 29 年 3 月、沖縄県）

3.「自然環境保全基礎調査 自然環境調査 Web-GIS 動物分布調査（第 2,3,4,5,6 回）」（環境省自然環境局生物多様性センター）

(3) 海域生物（藻場、サンゴ礁等）

1) 植物

対象地域の藻場及び干潟の分布図を図 3.3-12に示す。

藻場は南城市の太平洋側の前面海域に、干潟は南城市の中城湾側の前面海域に分布している。

事業実施想定区域周辺の前面沿岸部においては、藻場と干潟の分布はみられない。

2) 動物

対象地域のサンゴ礁の分布図を図 3.3-12に示す。

サンゴ礁は南城市の沿岸には底質や被度5%未満で分布しており、八重瀬町及び糸満市は全域に分布し、被度50%以上の分布もみられる。

事業実施想定区域周辺の前面沿岸部においては、被度5%未満～被度5-50%で分布している。

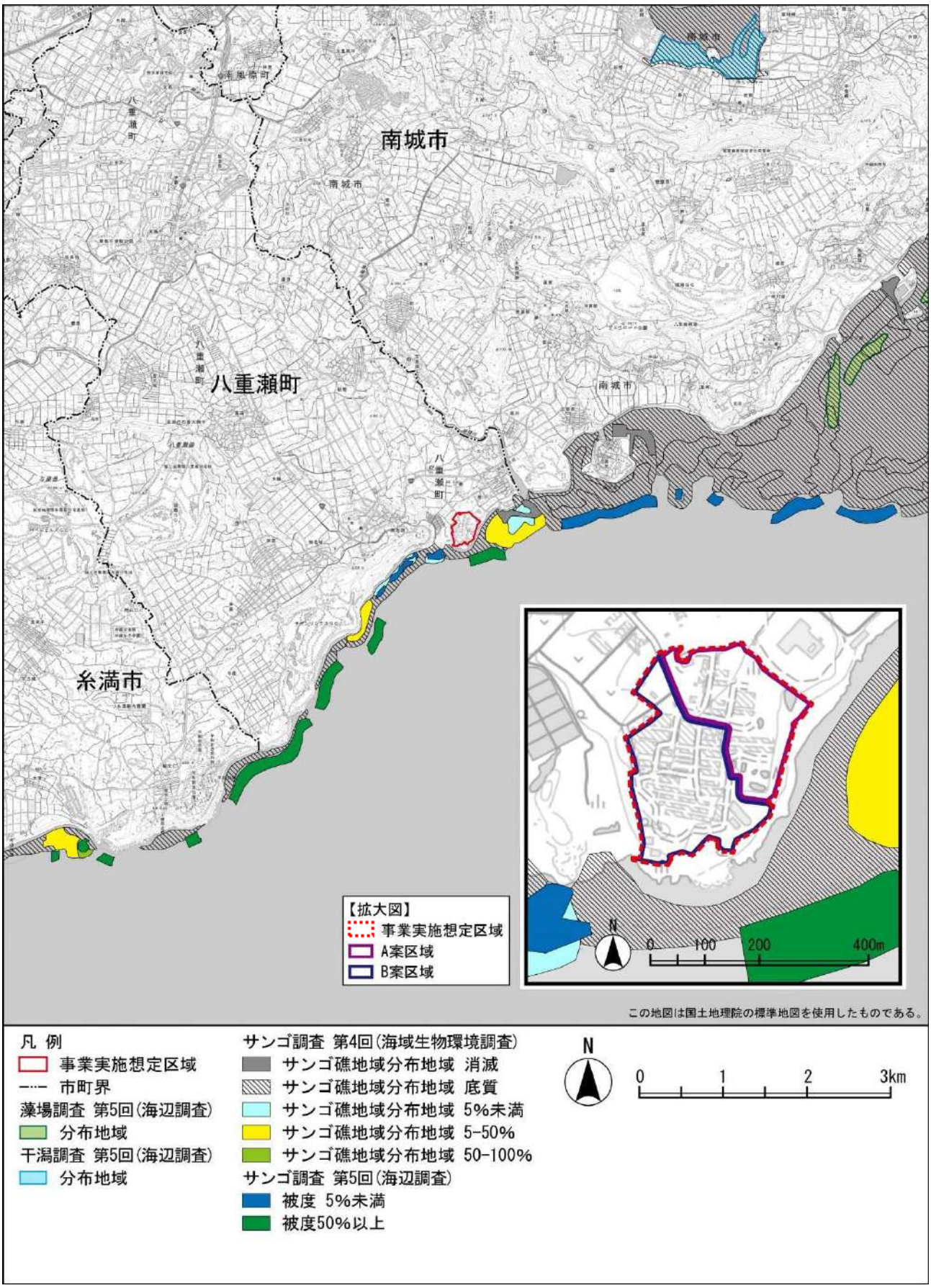

図 3.3-12　対象地域の干潟・藻場・サンゴ礁の分布図

出典：「自然環境保全基礎調査　自然環境調査 Web-GIS　干潟・藻場・サンゴ礁調査（第 4､5 回)」(環境省自然環境局生物多様性センター)

(4) 生態系

対象地域における生態系の基盤となる注目すべき生息地の位置図を図 3.3-13に示す。

対象地域の前面海域は「生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域)」となっており、事業実施想定区域の西側には「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」として「屋富祖井」が、糸満市のウミガメ産卵地として「大度浜海岸」がみられる。

また、対象地域には、丘陵台地を中心に畑雑草群落及び緑の多い住宅地が広がり、河川沿いや急傾斜地にはハドノキーウラジロエノキ群団（二次林）等の帯状のまとまった樹林が見られる。また、ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落、ナガバカニクサーススキ群団等がパッチ状に分布し、これら草地や低木林、二次林を基盤とした生態系が形成されている。このような環境には、ジャコウネズミやオキナワハツカネズミ等の哺乳類をはじめ、リュウキュウツミやリュウキュウアオバズク等の猛禽類、ヘリグロヒメトカゲ等の爬虫類が生息しているものと考えられる。また、石灰岩地の樹林にはシュリケマイマイ等の陸産貝類やクロイワトカゲモドキが見られ、海岸沿いに広がるアダン群団や事業実施想定区域の海岸に近いハドノキーウラジロエノキ群団（二次林）等にはオカヤドカリ類が多く生息するものと考えられる。対象地域に水辺環境は少ないが、河川には川と海を行き来するテナガエビ類やハゼ類等が生息し、林内の溜まりや湿地等にはシリケンイモリやオキナワアオガエル等の両生類が繁殖しているものと考えられる。

対象地域の海域では、藻場と干潟は南城市の一部のみに見られ、一方、サンゴ礁は広域的に分布している。特に八重瀬町には被度50%以上のサンゴ礁も多く、このような発達したサンゴ礁や干潮時に形成されるイノー（礁池）は、魚類をはじめ甲殻類、貝類、海藻類など多様な生物を育む重要な場になっていると考えられる。

図 3.3-13　対象地域の注目すべき生息地位置図

出典：1.「海洋状況表示システム/海洋生物・生態系/ウミガメ産卵地」（海上保安庁）
2.「環境省ホームページ/生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 自然環境局 自然環境計画課）
3.「環境省ホームページ/生物多様性の観点から重要度の高い海域」（環境省自然環境局 自然環境計画課）

3.3.6 景観

(1) 景観資源の状況

事業実施想定区域は太平洋の沿岸に位置しており、周辺には拝所や御嶽、伝統的建築物などが点在し、低地部にはサトウキビ畑等の農地が広がっている。

対象地域における主な景観資源一覧を表 3.3-34に、分布状況を図 3.3-14に示す。

選定された景観資源は、「重要な地形・地質」が40件、「自然景観」が14件、「歴史・文化的景観」が75件、「まちなみ・くらし景観」が11件となっている。

事業実施想定区域の周辺には海成段丘、自然海岸、農地景観等が広がっており、事業実施想定区域には海成段丘がみられる。

表 3.3-34(1)　対象地域の景観資源一覧

No.	種別	名称		No.	種別	名称	
1	重要な地形・地質	海成段丘		—	重要な地形・地質	喜屋武～東里	石灰岩堤
2		自然海岸		—		東里～魂魄之塔	石灰岩堤
—		具志頭城址の海岸	完新世離水サンゴ礁・離水キノコ岩（離水ノッチ）	—		喜屋武岬	完新世サンゴ礁
—		八重瀬岳	断層崖・メサ状地形	—		具志川城址～荒崎	海崖・ノッチ
—		ギーザバンタ下	湧泉	—		荒崎	サーフベンチ
—		富祖崎	砂嘴	—		荒崎～魂魄之塔～米須	海岸砂丘
—		知名崎	キノコ岩	3	自然景観	農地景観	
—		斎場御嶽	断層地形	4		八重瀬岳	
—		喜良原	石灰岩堤	5		ぐしちゃん浜	
—		琉球ゴルフ場南	石灰岩堤	6		玻名城の郷ビーチ	
—		垣花	湧泉	7		ギーザバンタ	
—		中村渠	湧泉	8		アヒラーブリ	
—		琉球ゴルフ場(地下)	石灰洞	9		摩文仁ヶ丘	
—		玉城村前川：玉泉洞及びその周辺	鍾乳洞・天然橋・カルスト谷	10		大度海岸	
—		玉城村港川一帯	港川石灰岩	11		新原ビーチ	
—		玉城村港川	石灰岩割れ目（フィッシャー）	12		百名ビーチ	
—		北波平	石灰岩堤	13		富里,糸数城趾間の断層崖植生	
—		賀数～座波～兼城	石灰岩堤	14		富里段層崖アマミアラカシ林	
—		報得川河口	ポットホール状地形	15		富祖崎のハマジンチョウ並びにメヒルギ群落	
—		与座南	石灰岩堤	16		玉泉洞	
—		与座岳	断層崖・メサ状地形	17	歴史・文化的景観	八重瀬グスク	
—		与座岳の北西（与座ガー）	湧泉	18		多々名グスク	
—		大里(カデシガー)	湧泉	19		具志頭グスク	
—		国吉	石灰岩堤	20		勢理グスク	
—		真栄里	石灰岩堤	21		新城グスク	
—		伊敷	石灰岩堤	22		テミグラグスク	
—		真壁北～宇江城	石灰岩堤	23		ミントングスク	
—		小波蔵～南波平	石灰岩堤	24		佐敷上グスク	
—		福地～伊原～米須	石灰岩堤	25		糸数城趾	
—		大渡西	石灰岩堤・断層崖	26		玉城城趾	
—		宇江城南	石灰岩堤	27		大城城趾	
—		摩文仁南	石灰岩堤	28		垣花城趾	
—		宇江城西～玻名城西	石灰岩堤	29		富盛の石彫大獅子	
—		摩文仁丘南～サザンリンクス	海崖・ノッチ				

表 3.3-34(2)　対象地域の景観資源一覧

No.	種別	名称	No.	種別	名称
30	歴史・文化的景観	小城のニーセー石	67	歴史・文化的景観	んじゃ井
31		子ヌ方の獅子	68		屋富祖井
32		卯ヌ方の獅子	69		座嘉武井
33		午ヌ方の獅子	70		世持井
34		酉ヌ方の獅子	71		受水送水
35		具志頭の石獅子	72		垣花樋川
36		東風平東の石獅子	73		知念大川
37		東風平西の石獅子	74		ガラビ壕
38		東風平南の石獅子	75		製糖工場跡えんとつ
39		東風平木田の石獅子	76		採石場
40		伊覇の石獅子	77		網保管場所
41		志多伯西の石獅子	78		龕屋
42		志多伯南の石獅子	79		志多伯神谷の門構え
43		志多伯東の石獅子（夫婦獅子）	80		自然橋
44		志多伯北の石獅子	81		東江ヌルドゥンチ
45		安里の石獅子	82		上江門家
46		新城北の石獅子	83		屋宜家
47		新城南の石獅子	84		玻名城の宮
48		新屋乃殿	85		伊舎道墓
49		金満之殿	86		港川フィッシャー
50		東風平之殿	87		龍神碑
51		玻名城之殿	88		ヤハラヅカサ
52		当銘之嶽	89		小谷の石畳道
53		香地畑嶽	90		沖縄戦跡国定公園
54		シロカネの嶽	91		平和記念公園
55		金満御嶽（松尾の嶽）	92	まちなみ・くらし景観	当銘のガジュマル
56		カミジャナノ嶽	93		世名城のガジュマル
57		唐の船御嶽	94		V 字ガジュマル
58		南の御嶽	95		フクギ並木
59		場天御嶽	96		国道 331 号沿道のヤシ並木
60		浜川御嶽	97		雄樋大橋
61		ウフーガー	98		港川漁港
62		中ヌカー	99		シュガーホール
63		ウフカー	100		おきなわワールド
64		シリンカー	101		南城市本庁舎
65		ビージーガ	102		ユインチホテル南城
66		産ガー			

注：「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）には位置情報がないため、No.を「―」とし、図示していない。

出典：1.「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）
2.「第 3 回自然環境保全基礎調査 沖縄県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）
3.「第 4 回自然環境保全基礎調査　沖縄県自然環境情報図」（平成 7 年、環境庁）
4.「八重瀬町景観計画」（平成 25 年 3 月、八重瀬町）
5.「八重瀬町景観計画策定業務（基礎編）報告書」（平成 23 年 3 月、八重瀬町）
6.「糸満市風景づくり計画」（平成 26 年 3 月、糸満市）
7.「南城市景観まちづくり計画」（平成 24 年 3 月、南城市）
8.「“美ら島沖縄”風景づくり計画（沖縄県景観形成基本計画）」（平成 23 年 1 月、沖縄県）

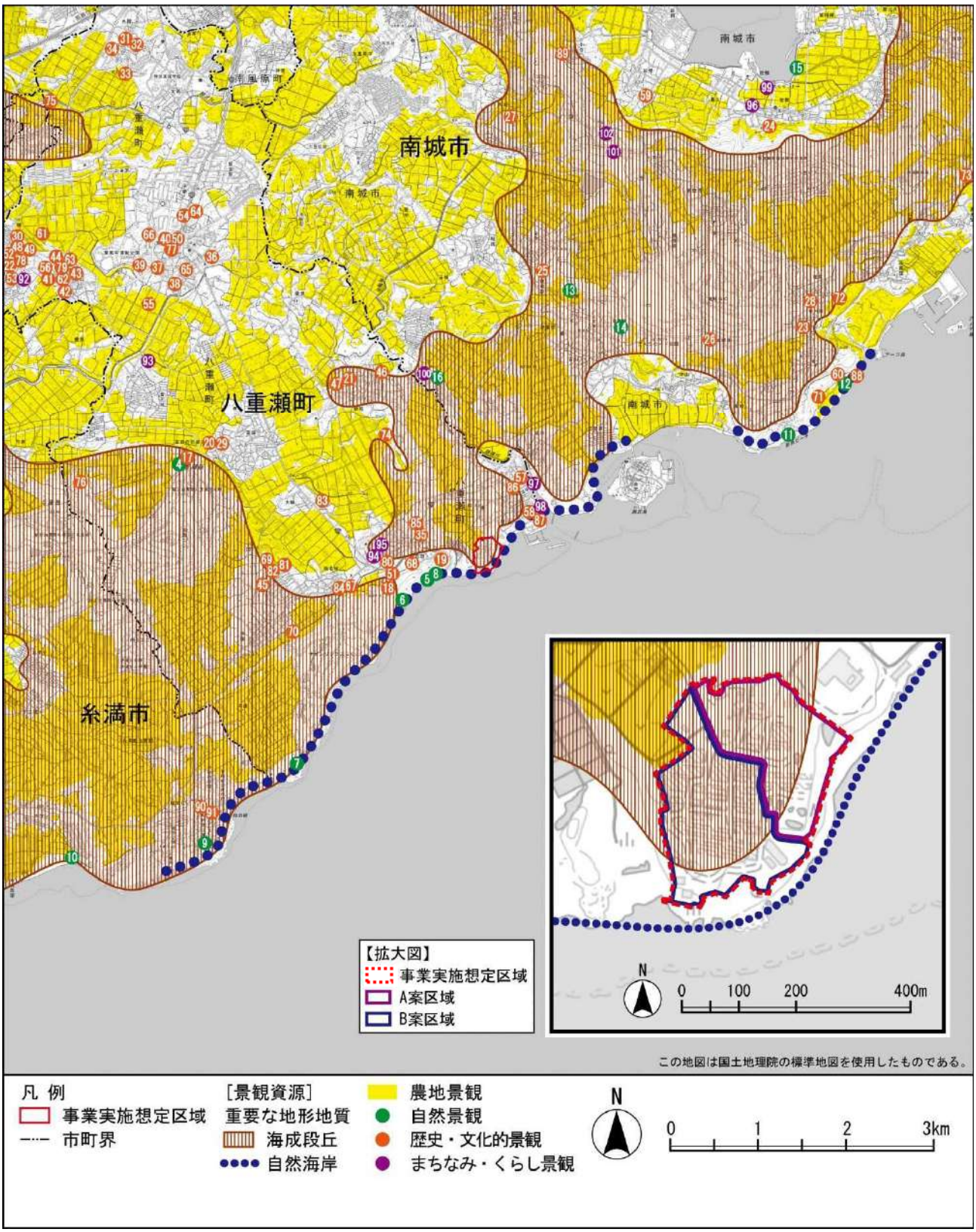

図 3.3-14　対象地域の景観資源の分布図

注 1：番号は、表 3.3-34 に対応している。
注 2：農地景観は農用地区域を示している。
注 3：「自然環境の保全に関する指針 沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県環境部自然保護課）には位置情報がないため、図示していない。
出典：1.「第 3 回自然環境保全基礎調査 沖縄県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）
2.「第 4 回自然環境保全基礎調査 沖縄県自然環境情報図」（平成 7 年、環境庁）
3.「八重瀬町景観計画」（平成 25 年 3 月、八重瀬町）
4.「八重瀬町景観計画策定業務（基礎編）報告書」（平成 23 年 3 月、八重瀬町）
5.「糸満市風景づくり計画」（平成 26 年 3 月、糸満市）
6.「南城市景観まちづくり計画」（平成 24 年 3 月、南城市）
7.「“美ら島沖縄”風景づくり計画（沖縄県景観形成基本計画）」（平成 23 年 1 月、沖縄県）

(2) 利用及び眺めの状況

対象地域における主要眺望点の一覧を表 3.3-35に、分布状況を図 3.3-15に示す。

対象地域における主要眺望点は八重瀬町に14ヶ所、糸満市に3ヶ所、南城市に10ヶ所あり、八重瀬岳や丘陵地などの高台の公園や城跡からは低地部分の集落や農業地帯、斜面緑地の稜線、雄大に広がる太平洋など様々な景色を望むことができる。

事業実施想定区域には主要な眺望点はみられない。

表 3.3-35　対象地域の主要な眺望点一覧

No.	市町名	名称
1	八重瀬町	八重瀬岳（八重瀬公園）
2		具志頭城址
3		多々名グスク
4		ギーザバンタ
5		勢理グスク
6		新城グスク
7		金満御嶽
8		東風平之殿
9		字上田原の絶壁
10		雄樋川大橋
11		小城馬場広場の展望台
12		西部プラザ公園
13		東風平運動公園
14		具志頭運動公園
15	糸満市	平和祈念公園
16		沖縄清明の丘公園
17		大度浜海岸
18	南城市	おきなわの道自転車道展望台
19		糸数城跡
20		前川地区展望台
21		グスクロード公園
22		玉城城趾
23		仲村渠農村公園
24		垣花樋川
25		つきしろの街展望台
26		奥武島
27		冨祖崎公園

出典：1.「八重瀬町景観計画」（平成 25 年 3 月、八重瀬町）
2.「八重瀬町景観計画策定業務（基礎編）報告書」（平成 23 年 3 月、八重瀬町）
3.「南城市景観まちづくり計画」（平成 24 年 3 月、南城市）
4.「平和記念公園 園内図」（平成 27 年 5 月、公益財団法人沖縄県平和祈念財団）
5.「沖縄清明の丘墓地公園ホームページ」（公益財団法人 沖縄県平和祈念墓苑管理協会）
6.「いとまん観光ナビ 糸満市観光特設サイト」（糸満市）

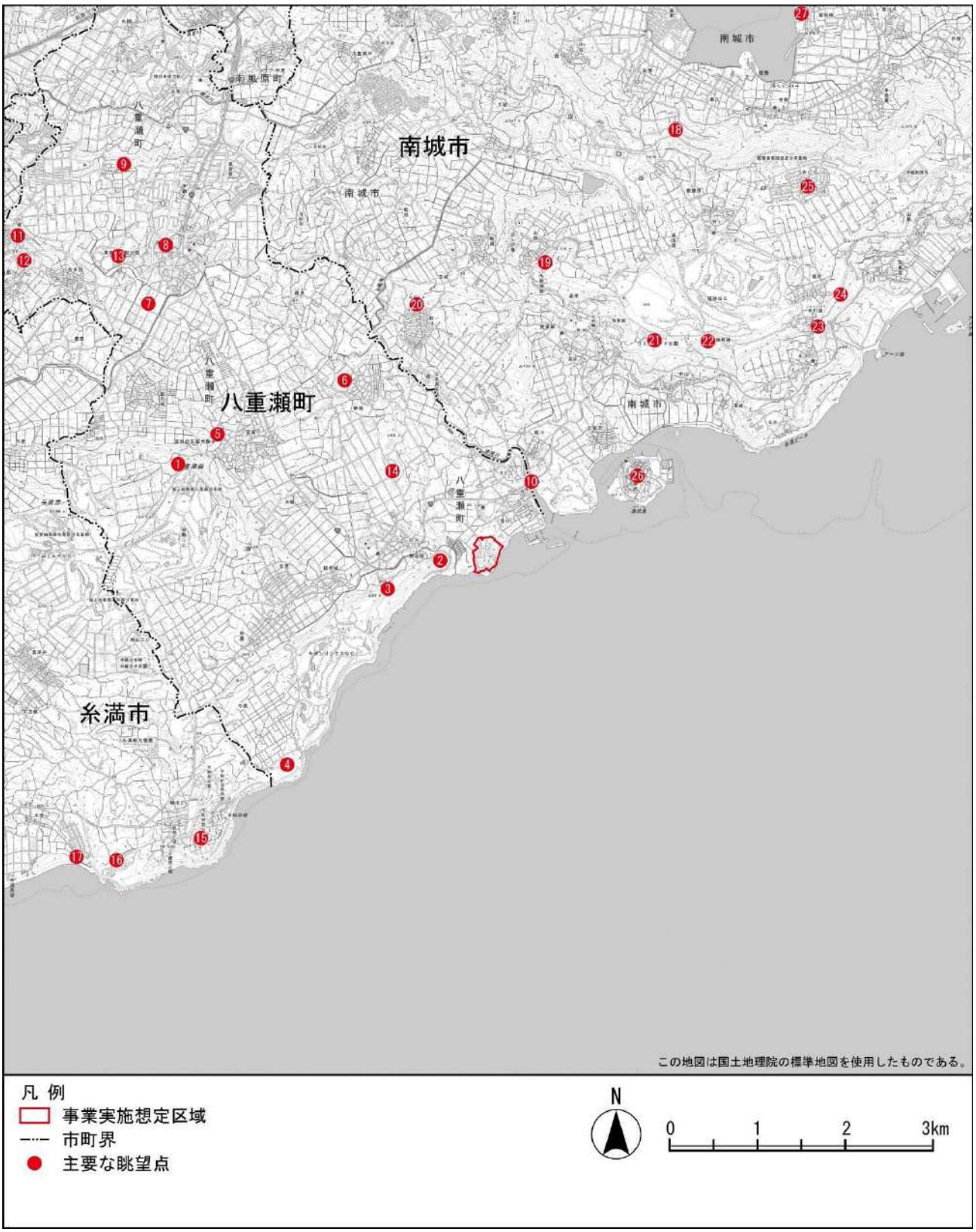

図 3.3-15　対象地域の主要な眺望点位置図

注：番号は、表 3.3-35 に対応している。

出典：1.「八重瀬町景観計画」（平成 25 年 3 月、八重瀬町）
2.「八重瀬町景観計画策定業務（基礎編）報告書」（平成 23 年 3 月、八重瀬町）
3.「南城市景観まちづくり計画」（平成 24 年 3 月、南城市）
4.「平和記念公園 園内図」（平成 27 年 5 月、公益財団法人沖縄県平和祈念財団）
5.「沖縄清明の丘墓地公園ホームページ」（公益財団法人 沖縄県平和祈念墓苑管理協会）
6.「いとまん観光ナビ 糸満市観光特設サイト」（糸満市）

3.3.7 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象地域における人と自然との触れ合いの活動の場の一覧を表 3.3-36に、分布状況を図 3.3-16に示す。

対象地域には、沖縄特有の野生動植物を観察することができる「ホロホローの森」及び「カンガラーの谷」や日本有数の鍾乳洞である「玉泉洞窟」のほか、沖縄県南部の桜の名所である「八重瀬公園」やボルダリングの有数エリアとして知られる「ぐしちゃん浜」等が存在する。

また、事業実施想定区域周辺は太平洋に面していることから、天然の砂浜や海水浴場が複数点在している。

事業実施想定区域の周辺には具志頭城址が分布しており、具志頭城址は近年パラグライダーの離発場所として注目され、大会も定期的に開催されている。

表 3.3-36　対象地域の人と自然との触れ合いの活動の場

No.	種別	市町名	名称
1	遊歩道	八重瀬町	ホロホローの森（具志頭遊歩道）
2		南城市	ガンガラーの谷
3	鍾乳洞	南城市	玉泉洞
4	公園等	八重瀬町	八重瀬公園
5		八重瀬町	西部プラザ公園
6		八重瀬町	具志頭城址
7	海岸・海水浴場	八重瀬町	玻名城の郷ビーチ
8		八重瀬町	ぐしちゃん浜
9		南城市	百名ビーチ
10		南城市	みーばるビーチ
11		糸満市	大度浜海岸

出典：1.「八重瀬町観光ガイドブック」（平成 29 年 9 月、八重瀬町）
2.「八重瀬町観光振興基本計画」（平成 26 年 5 月、八重瀬町）
3.「町勢要覧 八重瀬のくくる」（平成 21 年 3 月、八重瀬町）
4.「南城市の観光ポータルサイト　らしいね南城市」（南城市役所観光商工課）
5.「いとまん観光ナビ 糸満市観光特設サイト」（糸満市）
6.「おきなわ観光情報 WEB サイト　おきなわ物語」（沖縄観光コンベンションビューロー）

図 3.3-16　対象地域の人と自然との触れ合い活動の場の分布図

注：番号は、表 3.3-40 に対応している。

出典：1.「八重瀬町観光ガイドブック」（平成 29 年 9 月、八重瀬町）
2.「八重瀬町観光振興基本計画」（平成 26 年 5 月、八重瀬町）
3.「町勢要覧 八重瀬のくくる」（平成 21 年 3 月、八重瀬町）
4.「南城市の観光ポータルサイト　らしいね南城市」（南城市役所観光商工課）
5.「いとまん観光ナビ 糸満市観光特設サイト」（糸満市）
6.「おきなわ観光情報 WEB サイト　おきなわ物語」（沖縄観光コンベンションビューロー）

3.3.8 歴史的・文化的環境

(1) 文化財等

対象地域における文化財等の一覧を表 3.3-37に、分布状況を図 3.3-17に示す。

対象地域の文化財等は国指定が7件、県指定が12件、市町村指定が17件分布している。

事業実施想定区域の周辺には「ゆったちじょうの御嶽」がみられるが、事業実施想定区域には文化財等はみられない。

表 3.3-37　対象地域の文化財等一覧

分類	種別	番号	名称	所在地	指定年月日
史跡	国指定	1	糸数跡	南城市玉城字糸数竹之口原、屋敷原	昭和 47 年 5 月 15 日
		2	玉城城跡	南城市玉城字玉城門原、伊佐毘原	昭和 62 年 8 月 21 日
		3	佐敷城跡	南城市佐敷字佐敷島宜原、島之上原、下代原	平成 25 年 10 月 17 日
	県指定	4	米須貝塚	糸満市字米須	昭和 31 年 10 月 19 日
		5	佐敷ようどれ	南城市佐敷字佐敷仲上原	昭和 33 年 1 月 17 日
		6	垣花城跡	南城市玉城字垣花和名盤	昭和 36 年 6 月 15 日
		7	ミントングスク	南城市玉城字仲村渠後根	昭和 52 年 1 月 10 日
	市町村指定	8	ゆったちじょうの御嶽	八重瀬町字具志頭 1745	平成 6 年 2 月 4 日
		9	慶座井	八重瀬町字安里 1366	平成 6 年 2 月 4 日
		10	港川遺跡	八重瀬町字長毛 290-9　他	平成 28 年 7 月 5 日
		11	浜川御嶽	南城市玉城字百名伊佐良原 717	昭和 52 年 7 月 21 日
		12	受水走水	南城市字百名浦原 1593　他 4 筆	昭和 52 年 7 月 21 日
		13	志喜屋グスク	南城市知念字志喜屋 505-6	昭和 57 年 3 月 31 日
		14	つきしろの岩・井	南城市佐敷字佐敷島宜原 158	昭和 58 年 3 月 7 日
		15	カンチャ大川	南城市知念字志喜屋 559	昭和 63 年 10 月 1 日
		16	大城城跡	南城市大里字大城 951　他 16 筆	平成 5 年 2 月 2 日
		17	船越グスク	南城市玉城字船越 338	平成 6 年 2 月 23 日
		18	知念按司の墓	南城市知念字知念 1148-10	平成 8 年 5 月 1 日
		19	苗代大比屋の屋敷跡	南城市佐敷字佐敷島宜原 86	平成 14 年 3 月 4 日
		20	具志堅の樋川	南城市知念字具志堅 164-1	平成 14 年 8 月 19 日
		21	前川民間防空壕群	南城市玉城前川 306-3　他 18 筆等	平成 30 年 4 月 24 日
天然記念物	国指定	－	コウノトリ	所在地、地域を定めず	昭和 31 年 7 月 19 日
		－	アカヒゲ	所在地、地域を定めず	昭和 45 年 1 月 23 日
		－	カラスバト	所在地、地域を定めず	昭和 46 年 5 月 19 日
		－	ジュゴン	所在地、地域を定めず	昭和 47 年 5 月 15 日
	県指定	22	佐敷町富祖崎海岸のハマジンチョウ群落	南城市佐敷字富祖崎	昭和 36 年 6 月 15 日
		－	コノハチョウ	所在地、地域を定めず	昭和 44 年 8 月 26 日
		－	イボイモリ	所在地、地域を定めず	昭和 53 年 11 月 9 日
		－	クロイワトカゲモドキ（マダラトカゲモドキを含む）	所在地、地域を定めず	昭和 53 年 11 月 9 日
		－	ホルストガエル	所在地、地域を定めず	昭和 60 年 3 月 29 日
		－	ナミエガエル	所在地、地域を定めず	昭和 60 年 3 月 29 日
		－	イシカワガエル	所在地、地域を定めず	昭和 60 年 3 月 29 日
		－	アマミヤマシギ	所在地、地域を定めず	平成 6 年 2 月 4 日
	市町村指定	23	世名城のガジュマル	八重瀬町字世名城 590	平成 4 年 4 月 2 日
		24	当銘のガジュマル	八重瀬町字当銘 42	平成 4 年 4 月 2 日
		25	玉泉洞	南城市玉城字前川 1336	平成 4 年 3 月 28 日

注：所在地、地域を定めず指定されているものについては、関係市町で確認記録のあるものを記載した。
出典：1.「沖縄県土地利用規制現況図　説明書」（令和 2 年 3 月、沖縄県企画部土地対策課）
2.「文化財課要覧（令和元年度版）」（令和元年 12 月、沖縄県教育庁文化財課）

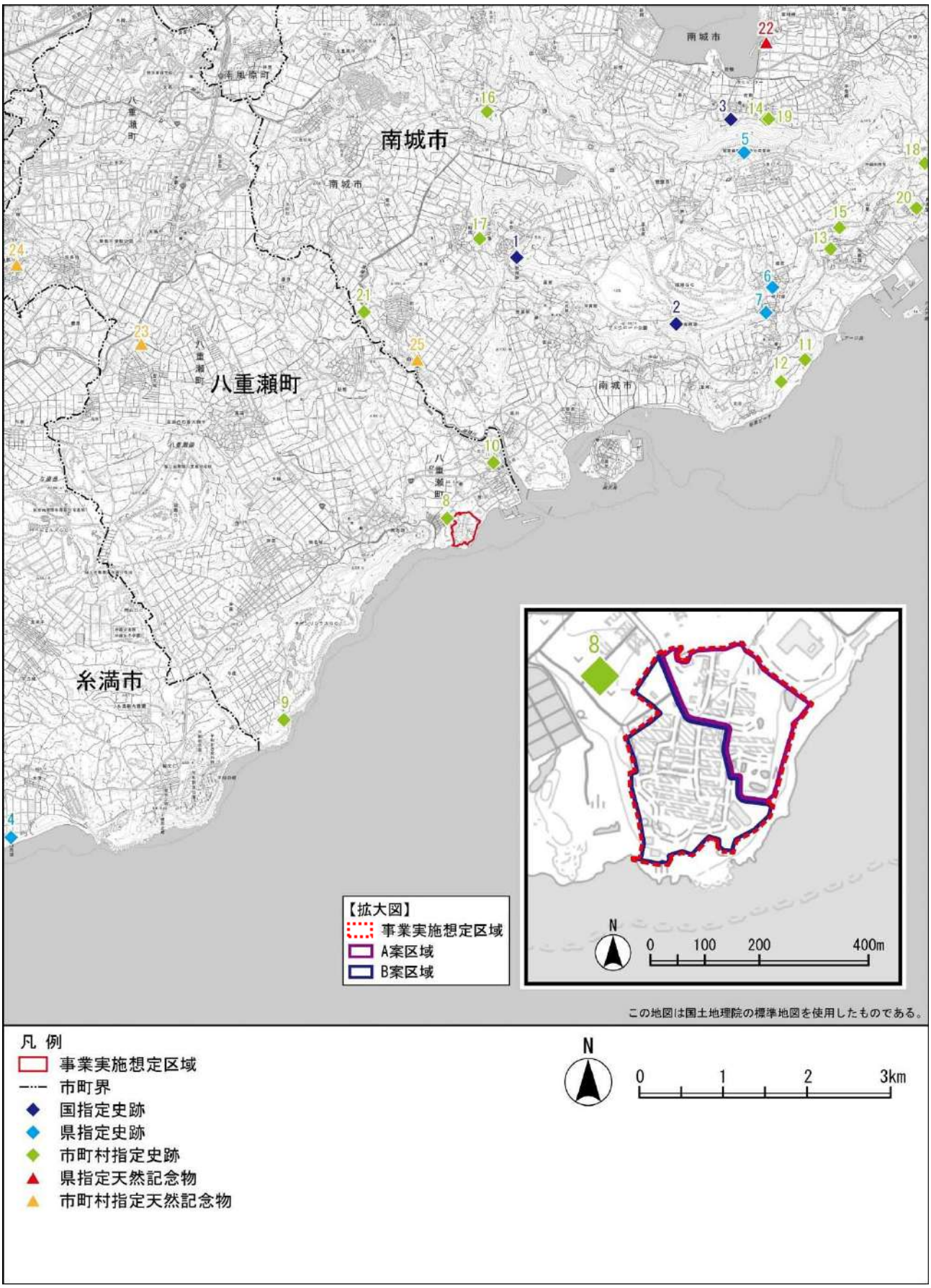

図 3.3-17　対象地域の文化財等の分布図

注：番号は表 3.3-37 に対応している。

出典：1.「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/土地利用規制現況図」（沖縄県企画部総合情報政策課）

2.「文化財課要覧（令和元年度版）」（令和元年 12 月、沖縄県教育庁文化財課）

(2) 埋蔵文化財包蔵地

対象地域における埋蔵文化財包蔵地の一覧を表 3.3-38に、分布状況を図 3.3-18に示す。

対象地域には埋蔵文化財包蔵地が八重瀬町で58件、糸満市で27件、南城市で106件分布しているが、事業実施想定区域には周知の埋蔵文化財包蔵地はみられない。

表 3.3-38(1) 対象地域の埋蔵文化財包蔵地一覧

No.	市町名	名称	分類	No.	市町名	名称	分類
1	八重瀬町	八重瀬グスク	グスク	51	八重瀬町	与古田屋原遺物散布地	散布地
2		外間遺跡（外間之殿内）	包蔵地	52		与座ヌ殿遺跡	集落跡
3		外間集落内遺物散布地	散布地	53		上グスク	グスク
4		友寄遺跡	集落跡	54		上グスク南方遺跡	集落跡
5		小城遺物散布地	散布地	55		与座前原遺跡	集落跡
6		志多伯遺跡	包蔵地	56		与座前原遺物散布地	散布地
7		志多伯東遺物散布地	散布地	57		慶座屋取跡	集落跡
8		東風平原遺跡	散布地	58		慶座原遺物散布地	散布地
9		カニマン御嶽遺跡	信仰・祭祀遺跡	59	糸満市	与座前原遺跡	集落跡
10		竿地原遺跡	散布地	60		上座ヌ殿遺跡	集落跡
11		蔵見川原北遺跡	包蔵地	61		与座グスク	グスク
12		蔵見川原遺物散布地	散布地	62		与座祭祀遺跡	信仰・祭祀遺跡
13		蔵見川原東遺跡	包蔵地	63		宇江城古島遺跡	集落跡
14		ジリグスク	包蔵地	64		宇江城グスク	グスク
15		世名城古島遺跡	集落跡	65		後原遺物散布地	散布地
16		世名城グスク	包蔵地	66		東原遺物散布地	散布地
17		高良古島遺跡	集落跡	67		米須貝塚	貝塚
18		ユリー原遺物散布地	散布地	68		大度遺跡	散布地
19		新城Ａ遺跡	集落跡	69		津間原遺物散布地	散布地
20		新城グスク	グスク	70		ガーラグスク	グスク
21		新城Ｂ遺跡	散布地	71		オドサトグスク	グスク
22		ガンデ原遺跡	散布地	72		高摩文仁グスク	グスク
23		十柱洞遺跡	散布地	73		ハガー原グスク	グスク
24		十柱向い貝塚	貝塚	74		摩文仁遺跡	集落跡
25		新里洞穴遺跡	洞穴遺跡	75		真栄平グスク	グスク
26		ガルマンド原遺物散布地	散布地	76		ブリ原グスク	グスク
27		ガラビ濠遺跡	洞穴遺跡	77		前原遺物散布地	散布地
28		赤頭原遺跡	グスク	78		大度貝塚	貝塚
29		大頓遺跡	散布地	79		宇江城東原遺物散布地	散布地
30		ザカン原遺跡	包蔵地	80		大度上間原遺物散布地	散布地
31		坂多原遺物散布地（A 地点）	散布地	81		大度津間原遺物散布地	散布地
32		坂多原遺物散布地（B 地点）	散布地	82		タナケナ原古屋敷跡	集落跡
33		坂多原遺物散布地（C 地点）	散布地	83		摩文仁ハンタ原遺跡	散布地
34		糸無名原遺物散布地（A 地点）	散布地	84		平原遺物散布地	散布地
35		糸無名原遺物散布地（B 地点）	散布地	85		米須第２貝塚	貝塚
36		糸無名原遺物散布地（C 地点）	散布地	86	南城市	真境名遺跡	散布地
37		石新原遺物散布地	散布地	87		稲福遺跡	グスク
38		登口原物散布地	散布地	88		稲福寺遺物散布地	散布地
39		港川フィッシャー遺跡	包蔵地	89		大城グスク	グスク
40		港川遺跡	包蔵地	90		高宮城遺跡	集落跡
41		志保志原遺物散布地	集落跡	91		公方原遺物散布地	散布地
42		ミドリグスク	グスク	92		目取真遺物散布地	散布地
43		ユッタチジョウ	集落跡	93		稲嶺遺跡	散布地
44		具志頭グスク	グスク	94		慶多下原遺物散布地	散布地
45		仲村渠遺跡	集落跡	95		石原遺物散布地	散布地
46		屋富祖村跡	集落跡	96		小谷原遺物散布地	散布地
47		ウフブリ下洞穴遺跡	洞穴遺跡	97		山崩原遺物散布地	散布地
48		玻名城古島遺跡	集落跡	98		赤畑原遺物散布地	散布地
49		多々名グスク	グスク	99		澤川原遺物散布地	散布地
50		マーガヌ殿遺跡	集落跡	100		運座原遺物散布地	散布地

表 3.3-38(2)　対象地域の埋蔵文化財包蔵地一覧

No.	市町名	名称	分類	No.	市町名	名称	分類
101	南城市	桃原・場天原遺物散布地	散布地	147	南城市	新原第二貝塚	貝塚
102		崩利下原遺物散布地	散布地	148		新原第三貝塚	貝塚
103		真謝原石斧採集地	散布地	149		新原第四貝塚	貝塚
104		兼久原遺物散布地	散布地	150		玉城城跡	グスク
105		親田原・真嘉原遺物散布地	散布地	151		中山海岸遺物散布地	散布地
106		真嘉原遺物散布地	散布地	152		志堅原遺跡	集落跡
107		佐敷下代原遺跡	散布地	153		志堅原根屋遺物散布地	散布地
108		佐敷上グスク	グスク	154		ミシラギ貝塚	貝塚
109		佐敷上グスク関連遺跡	グスク	155		堀川貝塚	貝塚
110		佐敷上グスク周辺遺物散布地	散布地	156		ハナンダガマ遺跡	洞穴遺跡
111		島宜原遺物散布地	散布地	157		喜良原遺跡	集落跡
112		苗代原・安志田原遺物散布地	散布地	158		糸数城跡	グスク
113		東江原遺物散布地	散布地	159		糸数城跡崖下貝塚	貝塚
114		与那嶺原遺物散布地	散布地	160		糸数集落内遺物散布地	散布地
115		奥増原遺物散布地	散布地	161		佐南原石器出土地	散布地
116		根堂原遺物散布地	散布地	162		根石グスク	グスク
117		仲里原遺物散布地	散布地	163		蔵屋敷遺跡	集落跡
118		瀬類原遺物散布地	散布地	164		屋嘉部殿遺跡	集落跡
119		手登根之前原遺物散布地	散布地	165		屋嘉部集落内遺物散布地	散布地
120		平田原遺物散布地	散布地	166		富里集落内遺物散布地	散布地
121		赤地原遺物散布地	散布地	167		仲栄真グスク	グスク
122		島之上原遺物散布地	散布地	168		大川グスク	グスク
123		横嶽原遺物散布地	散布地	169		当山集落内遺物散布地	散布地
124		底川原遺物散布地	散布地	170		安次富グスク	グスク
125		底川原石斧採集地	採集地	171		船越グスク	グスク
126		仲添原遺物散布地	散布地	172		船越Ａ遺跡	散布地
127		伊原集落内遺物散布地	散布地	173		船越遺跡	集落跡
128		落水原遺物散布地	散布地	174		印部土手	産業・土木遺跡
129		屋比久グスクおよび周辺遺物散布地	グスク･散布地	175		フルティラ遺跡	集落跡
130		浜崎原遺物散布地	散布地	176		前川鹿化石出土地	包蔵地
131		垣花遺跡	集落跡	177		前川貝塚	貝塚
132		垣花川原遺跡	貝塚	178		宇和川原半洞穴遺跡	洞穴遺跡
133		垣花洞穴遺跡	洞穴遺跡	179		玉城王の墓	墓地
134		垣花城跡	グスク	180		西威王の墓	墓地
135		垣花樋川遺跡	貝塚	181		具志堅ウージ洞穴遺跡	洞穴遺跡
136		垣花製鉄遺跡	生産遺跡	182		山里遺跡	包蔵地
137		垣花集落内遺物散布地	散布地	183		ハジシ洞穴遺跡	洞穴遺跡
138		仲村渠殿遺跡	集落跡	184		山里真謝原貝塚	貝塚
139		仲村渠集落内遺物散布地	散布地	185		志喜屋公民館周辺遺物散布地	散布地
140		ミントングスク	グスク	186		古間グスク・カンチャグスク	グスク
141		仲村渠貝塚	貝塚	187		ヤローヤ洞穴遺跡	洞穴遺跡
142		百名第一貝塚	貝塚	188		熱田原貝塚	貝塚
143		百名第二貝塚	貝塚	189		志喜屋グスク	グスク
144		大城グスク	グスク	190		アドキ島貝塚	貝塚
145		新原貝塚	貝塚	191		ウカハル	生産遺跡
146		新原第一貝塚	貝塚				

出典：「沖縄県土地利用規制現況図　説明書」（令和２年３月、沖縄県企画部土地対策課）

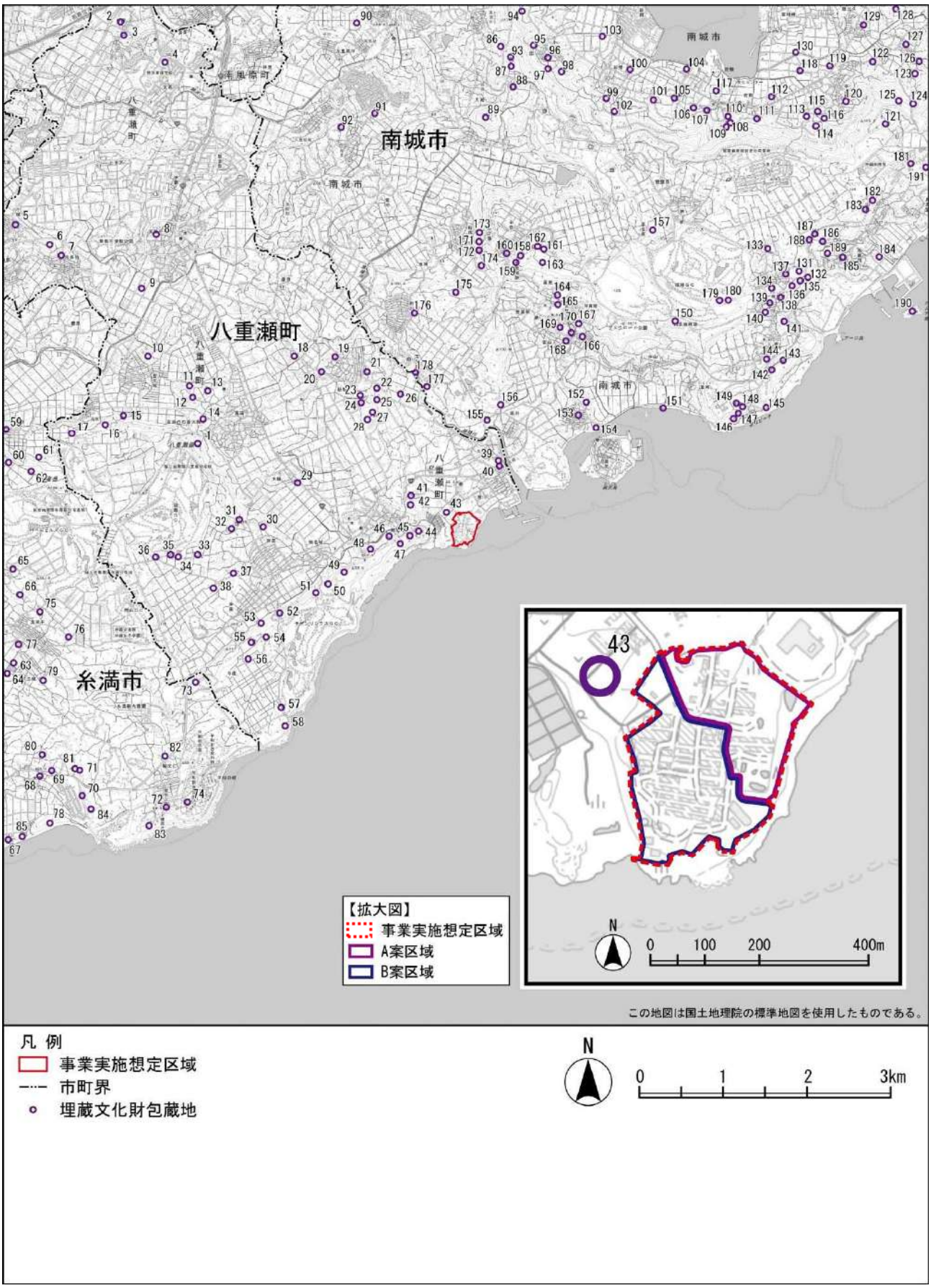

図 3.3-18　対象地域の埋蔵文化財包蔵地の分布図

注：番号は表 3.3-38 に対応している。

出典：「沖縄県地図情報システム/オープンデータ一覧/土地利用規制現況図」（沖縄県企画部総合情報政策課）

(3) 御嶽・拝所等

対象地域における御嶽・拝所等の一覧を表 3.3-39に、分布状況を図 3.3-19に示す。

対象地域には御嶽・拝所等が八重瀬町で19件、糸満市で12件、南城市で47件分布しており、事業実施想定区域周辺にはユツタチ城跡がある。

表 3.3-39　対象地域の御嶽・拝所等一覧

市町名	No.	名称	所在地	市町名	No.	名称	所在地
八重瀬町	1	上世名城之嶽	世名城	南城市	40	根石グスク遺跡	糸数
	2	神茶名之嶽	志多伯		41	ミントングスク	仲村渠
	3	当銘之嶽	当銘		42	船越グスク	船越
	4	白金嶽	小城		43	安次富グスク	當山
	5	金満之御嶽	東風平		44	大川グスク	當山
	6	比嘉森	富盛		45	仲栄真グスク	富里
	7	中間之嶽	富盛		46	大城グスク	百名
	8	ヒラウ之嶽	富盛		47	アマチジョーガマ	親慶原
	9	八重瀬嶽	富盛		48	ヤハラヅカサ	百名
	10	テダ川之嶽			49	ヤブサツノ浦原	百名
	11	具志頭城址、城中ヌ嶽	具志頭		50	御穂田	百名
	12	ユツタチ城跡	具志頭		51	カラオカハ	百名
	13	屋富祖井戸	具志頭		52	奥武島観音堂	奥武
	14	ミドリ城跡	具志頭		53	ミシラギ	志堅原
	15	与座之殿	与座		54	木田大時の屋敷跡	前川
	16	上城之嶽	仲座		55	拝所大川	
	17	新城のお宮	新城		56	拝所ヒラバンジョウ	具志堅
	18	上江洲ヒラ嶽	新城		57	ハヂシの嶽	山里（上川原）
	19	玻名城の殿	具志頭		58	大川之嶽	知念（下クルク原）
糸満市	20	チンガー（泉）	豊原		59	上の井	小谷小谷原 69
	21	トウヌ毛	豊原		60	下茂の井	小谷小谷原 81
	22	金満御嶽	与座		61	字新里中樋川	新里沢川原 110
	23	与座ノロ殿内	与座		62	鮫川殿	新里沢川原 47
	24	与座グスク	与座		63	イービ御嶽	新里沢川原 45
	25	ノロ殿内山	新垣		64	松尾の嶽	佐敷島宜原 122
	26	真栄平グスク	真栄平		65	与那嶺の殿	佐敷与那嶺原 839
	27	米須スーガー（潮泉）	米須		66	苗代殿	佐敷島宜原 86
	28	大度スーガー（潮泉）	大度		67	つきしろの岩、御井	佐敷島宜原 158
	29	大度サトグスク	大度		68	タキノウの嶽	佐敷下千原 1293
	30	サシキンガー（泉）	大度		69	アサト之嶽	仲程
	31	摩文仁上グスク	摩文仁		70	高宮城之殿	高宮城
南城市	32	糸数城跡	糸数		71	平川之殿	平川
	33	上栄田嶽	富里		72	稲嶺之殿	稲嶺
	34	奥武島東之嶽	奥武		73	ワクンノ殿	湧稲国
	35	受水走水	百名		74	目取真之殿	目取真
	36	浜川御嶽	百名		75	大城之殿	大城
	37	玉城城跡	玉城		76	大城按司墓	大城
	38	垣花城跡	垣花		77	稲福之殿	稲福
	39	屋嘉部殿遺跡	屋嘉部		78	真境名之殿	真境名

出典：「土地保全図付属資料（沖縄県）」（平成６年３月、国土調査研究会編）

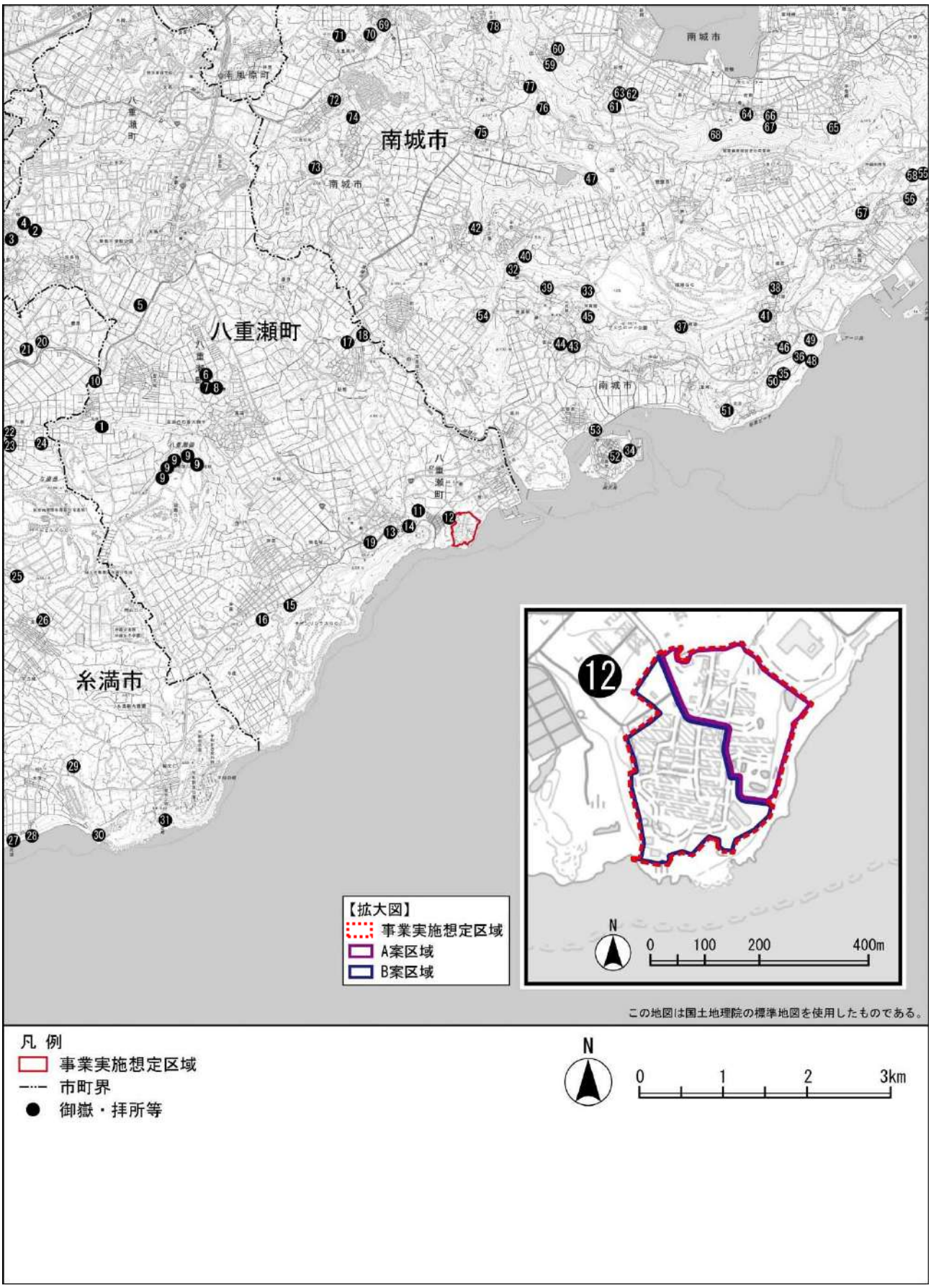

図 3.3-19　対象地域の御嶽・拝所等の分布図

注：番号は、表 3.3-39 に対応している。
出典：「土地保全図（御嶽の分布）　沖縄県」（平成 6 年、国土庁土地局）

(4) 湧水等

対象地域における湧水等の一覧を表 3.3-40に、分布状況を図 3.3-20に示す。

対象地域には湧水等が八重瀬町で7件、糸満市で3件、南城市で11件分布しているが、事業実施想定区域周辺には湧水等はみられない。

表 3.3-40　対象地域の湧水等一覧

No.	名称	所在地	資料
1	上ヌカー	八重瀬町字高良	資料 1
2	世持井	八重瀬町字仲座	資料 1
3	屋富祖井	八重瀬町字具志頭	資料 1
4	カシーガー	八重瀬町字富盛	資料 1
5	川平良井泉	八重瀬町具志頭	資料 1
6	座嘉武井泉	八重瀬町安里	資料 1
7	下茂ヌカー	八重瀬町志多泊	資料 1
8	クラガー	糸満市字宇江城	資料 1,2
9	アガリガー	糸満市字真栄平	資料 1,2
10	フクラシ泉	糸満市字米須	資料 1,2
11	カンチャ大川	南城市知念字志喜屋	資料 1,3
12	具志堅の樋川	南城市知念字具志堅	資料 1
13	知念大川	南城市知念字知念	資料 1
14	上の井	南城市佐敷字小谷小谷原	資料 1,3
15	中の井	南城市佐敷字小谷小谷原	資料 1,3
16	下茂の井	南城市佐敷字小谷小谷原	資料 1,3
17	仲村渠樋川	南城市玉城字仲村渠	資料 1,3
18	垣花樋川	南城市玉城字垣花	資料 1,3
19	船越大川	南城市玉城字船越	資料 1
20	前川樋川	南城市玉城字前川	資料 1
21	糸数樋川	南城市玉城字糸数	資料 1,3

出典：1.「環境省/湧水保全ポータルサイト/代表的な湧水/沖縄県」（環境省）
2.「糸満市ホームページ/糸満市の湧水」（糸満市）
3.「南城市の観光ポータルサイト　らしいね南城市」（南城市）

3.3.9 一般環境中の放射性物質の状況

対象地域内では一般環境中の放射性物質に関する連続測定は実施されていない（「沖縄県ホームページ／沖縄県の環境放射能調査結果」（沖縄県））。

図 3.3-20　対象地域の湧水等の分布図

注：番号は、表 3.3-40 に対応している。

出典：1.「環境省/湧水保全ポータルサイト/代表的な湧水/沖縄県」（環境省）
2.「糸満市ホームページ/糸満市の湧水」（糸満市）
3.「南城市の観光ポータルサイト　らしいね南城市」（南城市）
4.八重瀬町生涯学習文化課 提供資料